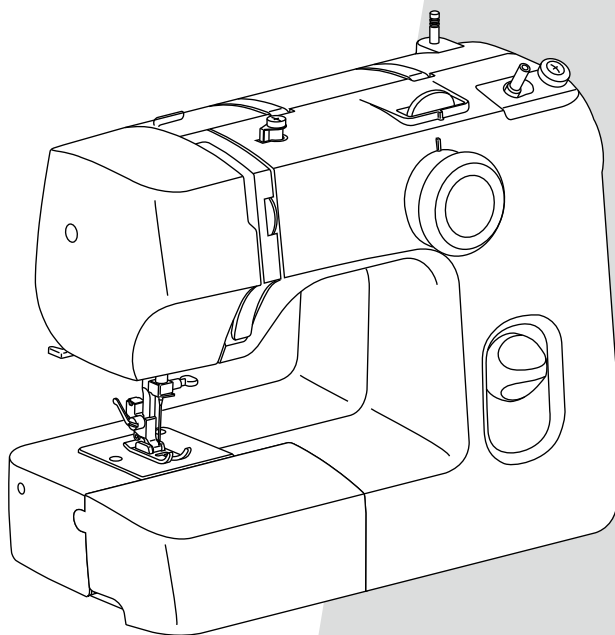


取扱説明書

モデル： FL-220 シリーズ

Sewing Machine



お買い上げいただきありがとうございます。

AXE YAMAZAKI
株式会社 アックス ヤマザキ



電気製品は安全のための注意事項を守らなければ、火災や人身事故になる場合があります。
この「取扱説明書」には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いを示しています。
この「取扱説明書」をよくお読みのうえ、この製品を安全にご使用ください。

また、お読みになった後はいつでも見ることができるよう、大切に保管してください。

お使いになる前にお読みください

安全にご使用いただくために ----- 2

取り扱いのお願い ----- 3

補助テーブル ----- 4

付属品 ----- 4

各部の名まえ ----- 5

操作の仕かた

模様選択ダイヤル ----- 6

手持ちハンドル ----- 6

押え上げレバー ----- 7

押えの取りはずしかた・取り付けかた ----- 7

押えホルダーの取りはずしかた・取り付けかた ----- 8

縫い目長さ調節ダイヤル ----- 8

電源入れる ----- 9

縫う前の準備

ボビンの取り出しかた ----- 10

下糸の巻きかた ----- 11

下糸のセット ----- 14

上糸のかけかた ----- 15

下糸の引き上げかた ----- 19

縫ってみる <基本編>

試し縫い（直線縫い） ----- 21

返し縫い ----- 25

厚い布や段差を縫う ----- 25

縫い方向を変える ----- 26

針、糸、布の関係 ----- 26

糸調子の合わせかた ----- 27

縫ってみる <応用編>

ジグザグ縫い／縁かがり縫い ----- 28

パッチワーク（つき合わせ） ----- 28

スカラップ ----- 29

フリーアーム ----- 29

ボタンホール縫い ----- 30

お手入れ

針の取り替えかた ----- 32

正しい針の選びかた ----- 32

カマのそうじ ----- 33

送り歯のそうじ ----- 35

その他

困ったときは ----- 36

仕様 ----- 37

修理サービス要領 ----- 38

お問い合わせまたはご相談先 ----- 38

保証書 ----- 終

安全にご使用いただくために

ご使用の前に「取扱説明書」を必ず読み、正しく安全にご使用ください。

この取扱説明書および商品には、安全にお使いいただくためにいろいろな表示をしています。以下の表示を無視して誤った取り扱いをすることにより生じる内容を、次のように区分しています。

以下の内容をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

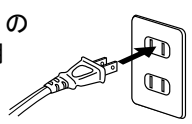
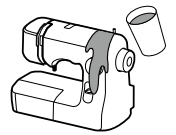
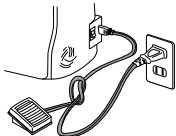
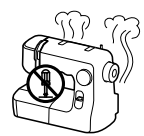
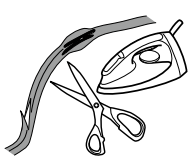
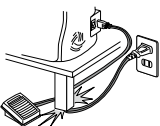
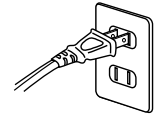
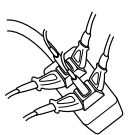
- このミシンは日本国内向け家庭用です。For use in JAPAN only. 国外での使用および職業用としてご使用になった場合の保証はできません。
- 仕様および外観は品質改善のため、予告なく変更することがあることをご了承ください。
- 取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 取扱説明書の内容を許可なく無断で複製することは禁じられておりますのでご了承ください。

 警告	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う恐れがある内容を示しています。	 注意	この表示を無視して誤った使い方をすると、人がケガをしたり財産に損害が生じる恐れがある内容を示しています。
--	---	---	--

この説明書で使用している絵文字の意味は次の通りです。

危険性を促す記号	行為を「禁止」する記号	行為を「指示」する記号
 火災の原因になります  感電の危険性があります  ケガの危険性があります	 禁止  分解禁止	 必ずすること  電源プラグを抜く

 注意	   ケガや財産に損害が生じる恐れがあります。
  ・ミシンを不安定な場所に置かないでください。 ・動作中に、はずみ車・針・天びんに手を触れないでください。 手や指が挟まる、針が刺さるなどケガの原因になります。 ・曲がった針は使わないでください。 針が折れ、ケガの原因になります。 ・カマカバーを開けたままミシンを操作しないでください。 ・縫製中、布を無理に引っばったり、押ししたりしないでください。 手や指が挟まる、針が刺さるなどケガの原因になります。	  ・電源コードはミシン本体やフットコントローラーに巻き付けないでください。 コードの断線や接触不良による感電の原因になります。 ・濡れた手で電源コードプラグを抜き差ししないでください。 感電の原因になります。   ・幼児の手が届かない場所に保管してください。 針や押えなどの突起でケガの原因になります。 ・糸をセットするときやミシンの手入れを行うときは電源スイッチを『OFF』にしてください。 作業途中にミシンが動く恐れがありケガの原因になります。
  ・火の気のあるもののそばでは使用しないでください。 (火の消えていないタバコ、ロウソクなど) 火災の原因になります。 ・ミシン本体の換気口をふさがないでください。 ・換気口は、必ず壁から 30cm 以上離してご使用ください。 また、換気口に糸くずやホコリが溜まらないようにしてください。 火災の原因になります。 ・スプレー製品などをご使用の部屋では、使用しないでください。 スプレーへの引火によるヤケド・火災の原因になります。	   ・ミシンの操作中はミシンから目を離さないでください。 ・交換した針を放置しないでください。 ・お子様が使用するときや、お子様の近くで使用するときは特に安全に注意し、お子様から目を離さないでください。 ・針、押え、アタッチメントを交換するときは、電源コードプラグをコンセントから抜いてください。 作業途中にミシンが動く恐れがありケガの原因になります。 ・屋外や直射日光のあたる場所、高温多湿な環境、寒い場所での使用は避けてください。 部品の劣化や変形、正常に作動しないことがあります。 ・ミシン本体は必ず手持ちハンドルを持って、持ち運びをしてください。 手持ちハンドル以外の部分を持つと破損したり、滑って落とし、ケガの原因になります。
   ・ミシンを使用しないときやミシンから離れたり、使用を中断するときはコンセントから電源コードプラグを抜いてください。 絶縁劣化、漏電などによる火災の原因になります。	  ・ミシン本体を持ち運びするときは、急激・不用意な動作をしないでください。 ケガの原因になります。 ・電源コードを引き抜くときは電源コードプラグを持って抜き差ししてください。 コードの断線や接触不良による感電の原因になります。

 警告		  死亡、火災、感電の恐れがあります。	
   火災・感電の原因になります。	一般家庭用電源 AC100V の電源以外では絶対に使用しないでください。 AC100V 50/60Hz 		ミシンの中に水や異物が入ったときは、電源スイッチを『OFF』にし、電源コードプラグをコンセントから抜いてください。 
	電源コードを傷つけたり、折り曲げ、結び、ねじれ、加工はしないでください。 		発煙や異臭、異音などの異常が発生したら電源スイッチを『OFF』にし、電源コードプラグをコンセントから抜いてください。 
	傷付いたり、溶けて線がむき出しになったコードを使用しないでください。 *コードが傷付いた場合は販売店・サービスセンターにて純正部品をお買い求めください。 		落したり正常に作動しないときは電源コードプラグをコンセントから抜いてください。 
	電源コードに机や椅子の脚など、重いものを載せないでください。 	火災・感電の原因になります。 販売店・サービスセンターに連絡ください。	電源コードプラグをコンセントにしっかりさし込んでください。 
	延長コードや分岐コンセントを使用したタコ足配線はしないでください。 		ミシン本体の換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどをさし込まないでください。 

取り扱いのお願い

永くご使用いただくため、次のことを守ってください。

縫製以外や業務用、職業用の目的には、ご使用にならないでください。極度の部品摩耗や破損につながります。

 注意		  ケガやミシンの故障が発生する恐れがあります。	
--	--	---	--

■ 曲がった針を使わない

曲がった針を使うと、次のようなケガや部品の損傷につながります。

・針穴に刺さらず、折れた針が飛び、ケガの原因になります。 ・押えや針板、ポビンケースに傷を付け、糸調子が合わなくなります。

■ このミシンで縫えないもの

次のものはこのミシンでは縫えません。針やモーターなどに過度の負担をかけ、故障の原因になるだけでなく、針折れなどの原因にもなります。

・木、プラスチック、金属などの板・ぬれた布、粗い網（漁網など） ・はずみ車を手で回しても針が刺さりにくい布、厚過ぎる布。

■ 保管時の結露（つゆつき）について

寒いところから、暖かい室内に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋では、本体の表面や内部に結露（つゆつき）が起こることがあります。結露がなくなるまで、電源コードプラグをコンセント（家庭用電源）に接続しないでください。そのままお使いになると感電や誤動作・故障の原因になります。

■ 直射日光・熱気をさける

直射日光が当たる場所や熱器具の近くには置かないでください。プラスチックのカバー部分や内部部品に変色・変形や部品劣化などの悪い影響を与えますのでご注意ください。

■ 糸絡みのとき、糸・布を引っばらない

針や部品を破損します。

■ ミシン表面のお手入れ

プラスチック部分の汚れがひどいときは、中性洗剤をぬるま湯に薄め、布に浸してかたく絞り、乾いた布で仕上げてください。
・ベンジン・シンナー・ワックスなどで拭かないでください。

■ 説明書で指定された以外の分解・改造はしない

ネジ類の締め忘れやゆるみにより、針折れや部品の破損の原因になります。

■ 長期間ご使用にならないとき

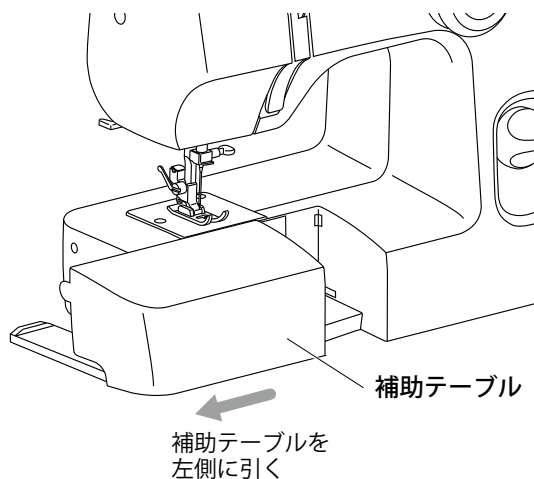
長期間ご使用にならないと、油の乾燥・固着などで機能に支障をきたす場合があります。時々、ミシンを動かしてください。油の固着を防ぐことができます。

■ ミシンの上に物を載せない / ミシンの上に乗らない

ミシンに負担がかかり故障の原因になるだけでなく、ミシンが倒れたりしてケガの原因になります。

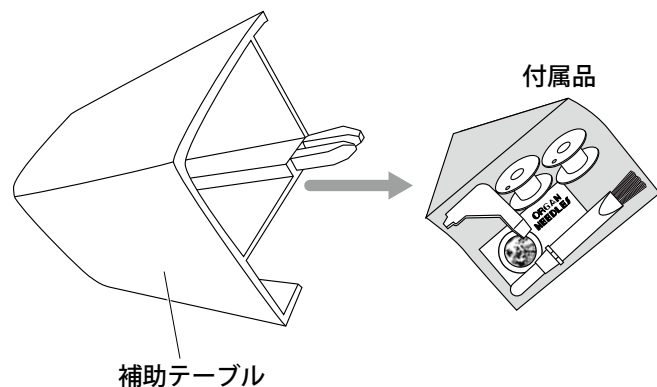
補助テーブル

● 補助テーブルの外しかた



『補助テーブル』を持って左に引き抜きます。

● 付属品の出し入れ



『補助テーブル』の内部に『付属品』が収納されています。

付属品

＊ 必ず専用の付属品をご使用ください。

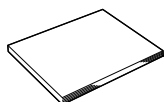


注意



・ 付属品でお子様がケガをする恐れがあります。
保管には充分ご注意ください。

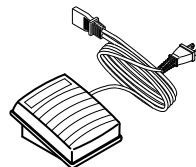
● ミシンと同梱されている付属品



取扱説明書（本書）

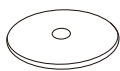


ミシンカバー



フットコントローラー
（電源コード一体型）

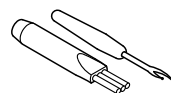
● 補助テーブル内の付属品



フェルト



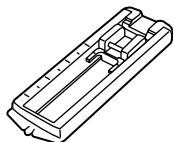
家庭用ミシン針
14 番：3 本



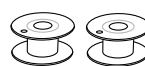
リッパー
（ブラシキャップ付）



針板ドライバー



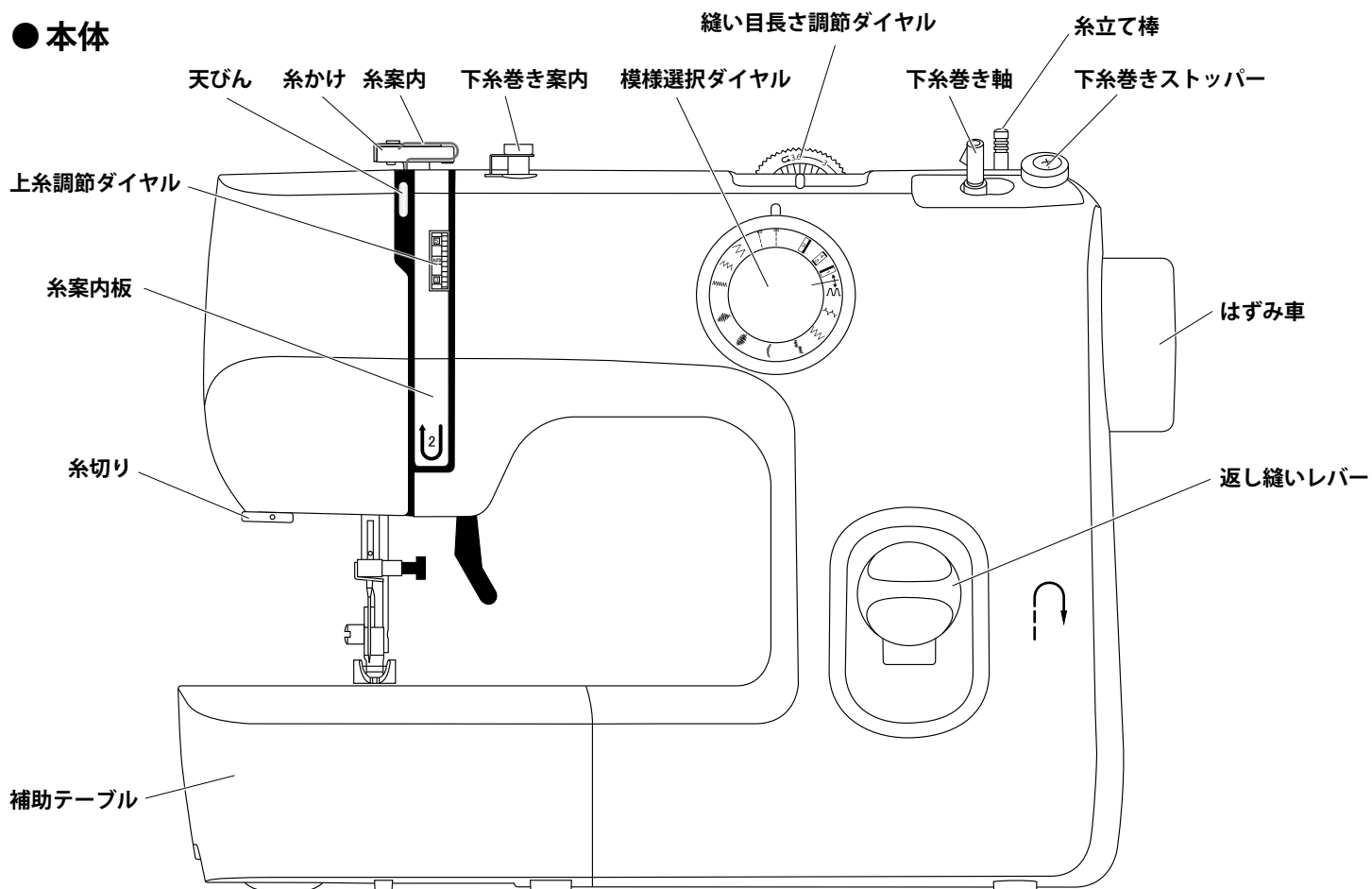
ボタンホール押え



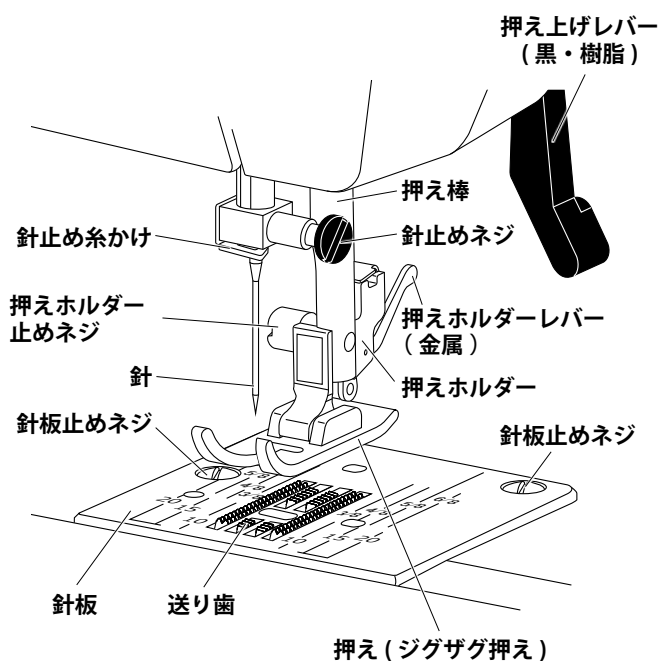
家庭用プラスチックボビン 2 個
（高さ 11.5mm × 直径 20.5mm）

各部の名まえ

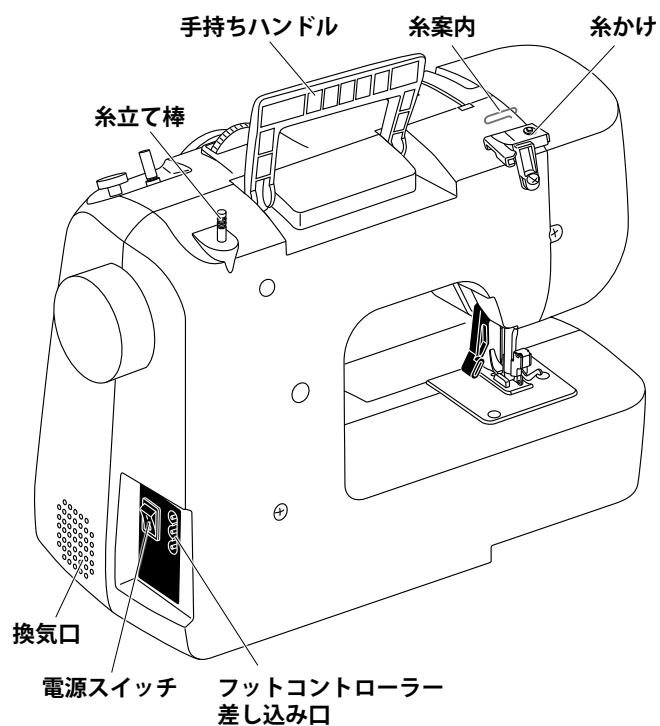
● 本体



● 針周辺



● 右側背面



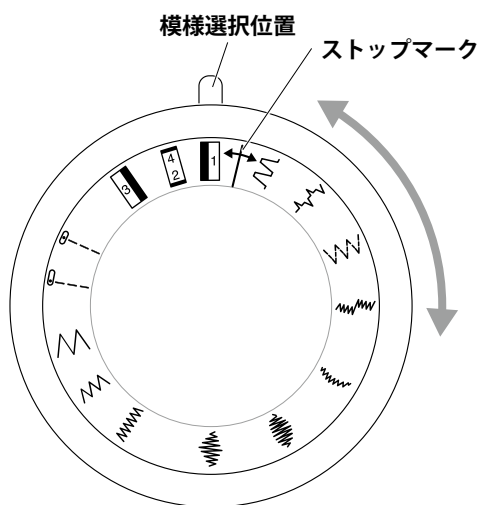
模様選択ダイヤル



注意



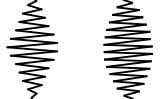
- ・はずみ車を手前に回し、針を上げる。
針が布に刺さった状態で、模様選択ダイヤルを回すと、針が折れケガをする恐れがあります。
- ・模様選択ダイヤルのストップマークより回さない。
ストップマークより回してしまうと、ミシンが破損します。



『模様選択ダイヤル』を回して、縫いたい模様を『模様選択位置』に合わせます。

＊『模様選択ダイヤル』は『ストップマーク』を超えて回せません。

● 縫い模様一覧

														
直線縫い（左基線）	直線縫い（中基線）	小・・・中・・・大			飾り縫い		スカラップ縫い	飾り縫い	点線ジグザグ縫い	飾り縫い	ボタンホール縫い			
		ジグザグ縫い （無段階）												

押え上げレバー

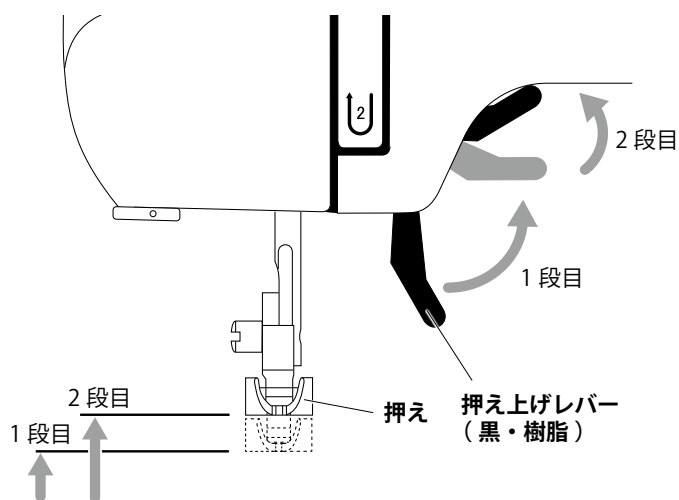


注意



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

<ミシン正面図>



『押え上げレバー (黒・樹脂)』を上げると
『押え』が上がります。

更に『押え上げレバー (黒・樹脂)』を上げると
『押え』がもう一段上がる2段階式になっています。

＊ 2段目では、『押え』の高さは固定できません。

＊ 布の厚みは1段目の高さを超えないようにしてください。

押えの取りはずしかた・取り付けかた



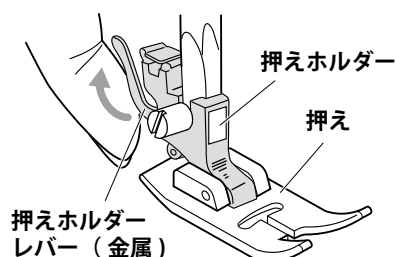
注意



・電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。

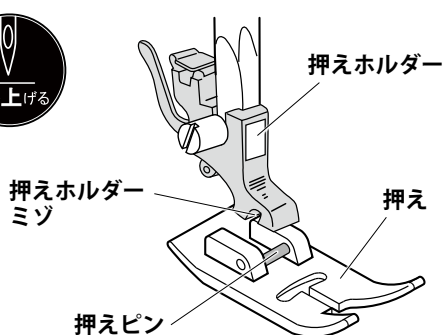


・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



●押えの取りはずしかた

- 【1】『はずみ車』を手前に回し、『針』を上げます。
- 【2】『押え上げレバー (黒・樹脂)』を上げます。
- 【3】『押えホルダーレバー (金属)』を上げると
『押え』が外れます。



●押えの取り付けかた

- 【1】『針』と『押え上げレバー (黒・樹脂)』を上げます。
- 【2】『押えピン』を『押えホルダーミソ』の真下に置きます。
- 【3】『押え上げレバー (黒・樹脂)』をゆっくり下げ、
『押えピン』と『押えホルダーミソ』を合わせ装着します。
＊ 『押え』がセットされると『カチッ』と音がします。
＊ 音がしない場合や『押え』がすぐにはずれるときは
もう一度『押えピン』と『押えホルダーミソ』の
位置を合わせ直してください。

押えホルダーの取りはずしかた・取り付けかた



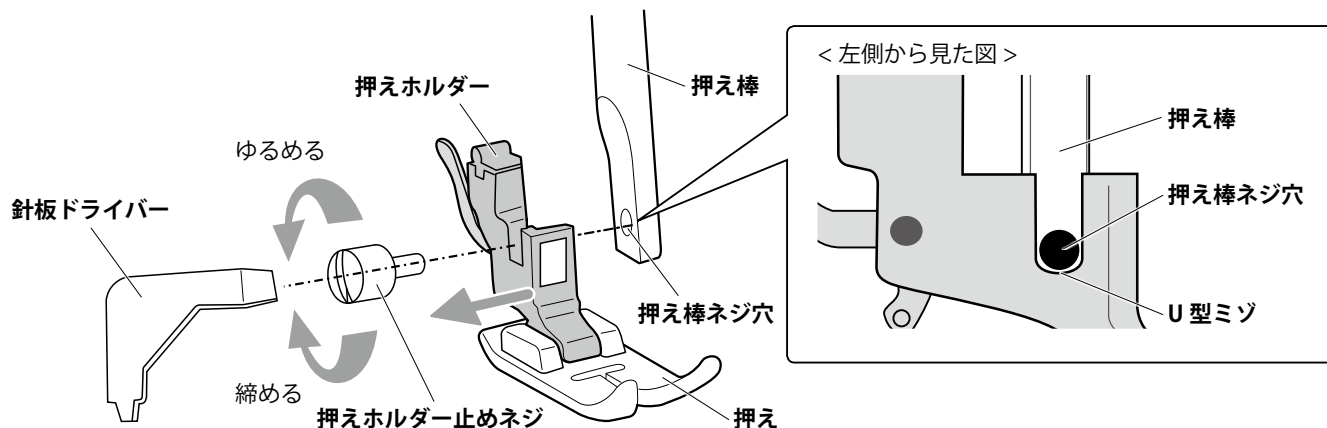
注意



・電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

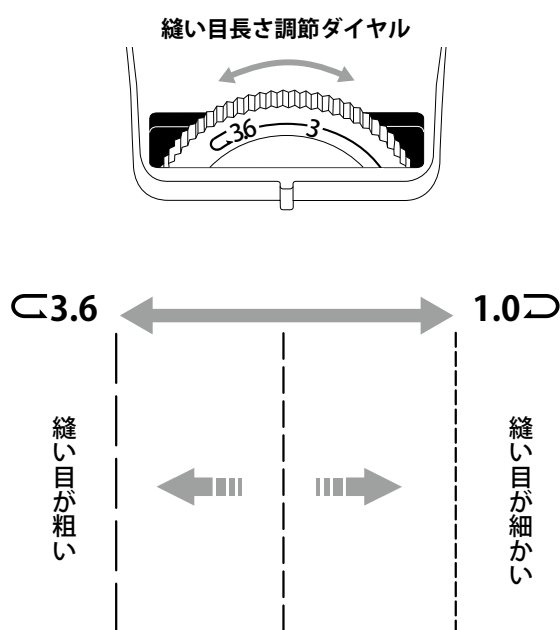


- 【1】『はずみ車』を手前に回して、『針』を一番上にします。
- 【2】『押え上げレバー（黒・樹脂）』で『押え』を上げます。
- 【3】はずす：『押えホルダー止めネジ』を『針板ドライバー』でゆるめ、
『押えホルダー』をはずします。

付ける：『押えホルダーのU型ミゾ』と『押え棒ネジ穴』の位置を合わせ、『押えホルダー止めネジ』を『針板ドライバー』で強く締めます。

縫い目長さ調節ダイヤル

『縫い目長さ調節ダイヤル』で調節することで縫い目の長さが変わります。



- ・『縫い目長さ調節ダイヤル』を数字の小さい方（左）に回すと縫い目の長さが細くなります。
- ・『縫い目長さ調節ダイヤル』を数字の大きい方（右）に回すと縫い目の長さが粗くなります。
- * 数字を 0 に合わせると布を送らなくなります。
- * 数字は 3.6 以上は回りません。
- * 厚い布や送りにくい布は数字を大きくしてください。
- * ボタンホールを縫うときは『□』に合わせてください。

電源を入れる



警告



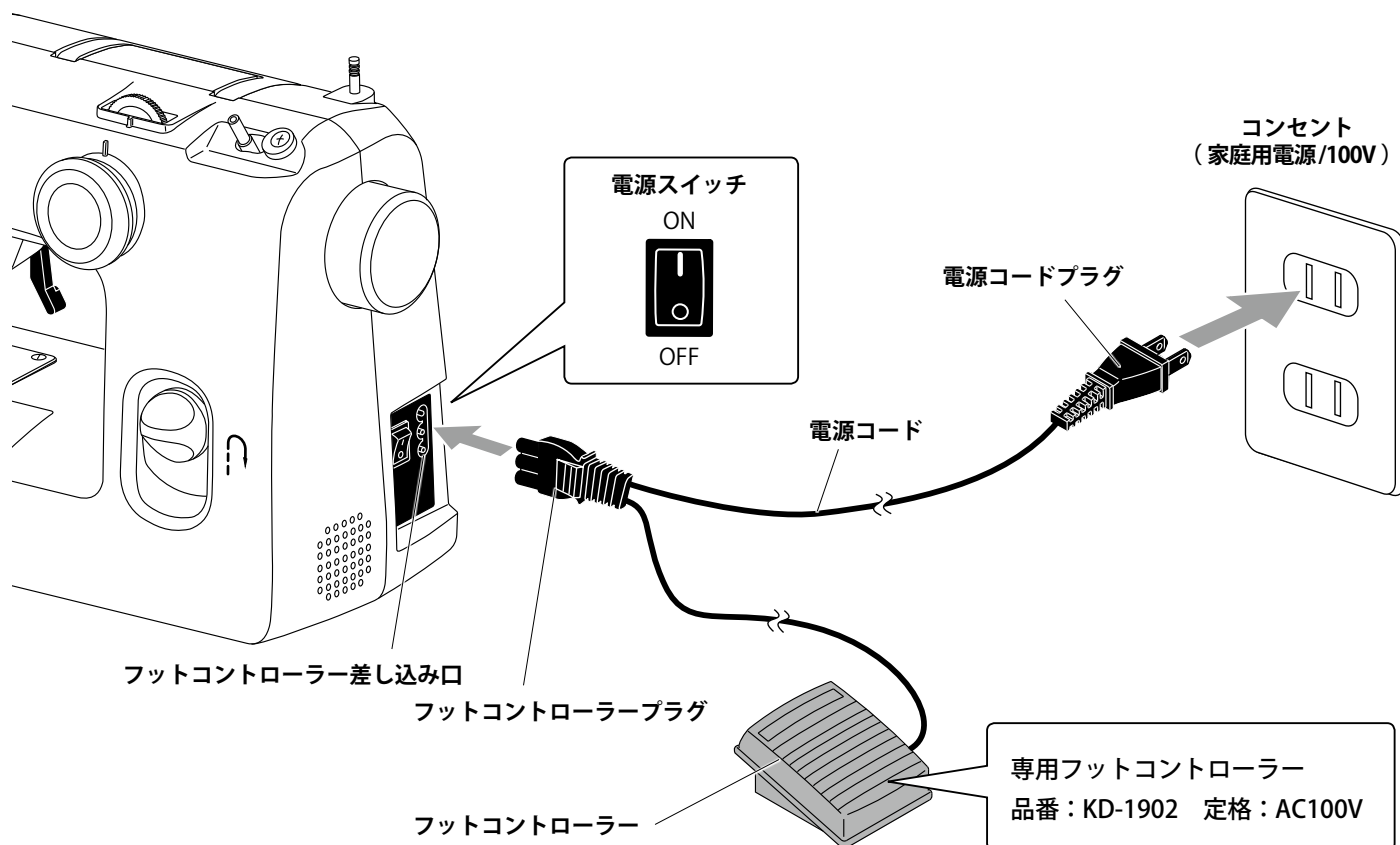
- ・電源コードはプラグ部分を持って抜き差しする。
電源コードを引っばると、電源コード部分が破損し、死亡、火災、感電、機器故障の原因になります。



注意



- ・電源スイッチを『OFF』にする。
- ・はずみ車や針周辺に手や物を置かない。
突然動くとケガをする恐れがあります。



- 【1】『電源スイッチ』を『OFF』にします。
- 【2】『フットコントローラープラグ』をミシン側の『フットコントローラー差し込み口』の向きを合わせてさし込みます。
- 【3】コンセント（家庭用電源/100V）に『電源コードプラグ』をさし込みます。
- 【4】『電源スイッチ』を『ON』にします。（『ランプ』が点灯します）
- 【5】『フットコントローラー』で操作します。

●『フットコントローラー』でのミシンの動かしかた・止めかた

『フットコントローラー』を踏むと、ミシンが動き始めます。

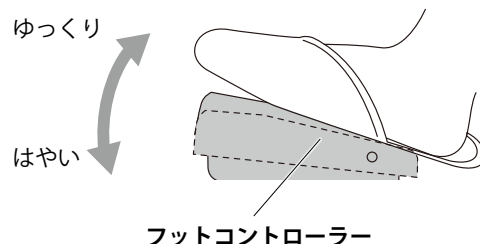
また、踏むのをやめるとミシンは止まります。

『フットコントローラー』の踏み込み加減によってミシンの速度調節ができます。

・ゆっくり：『フットコントローラー』を浅く踏みます。

・はやい：『フットコントローラー』を深く踏みます。

* 使用後は、必ず『電源コードプラグ』をコンセントから抜いてください。



ボビンの取り出し方



注意

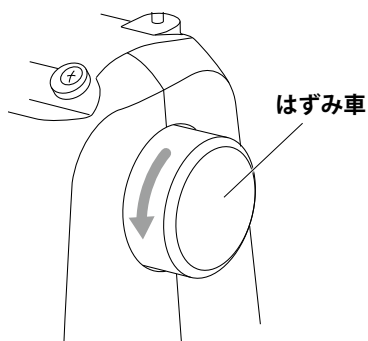


・電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。

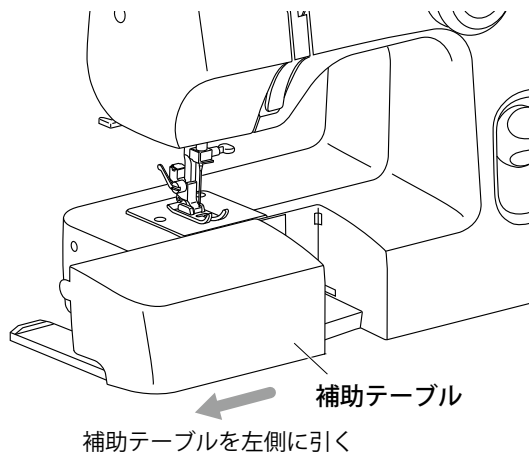


・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

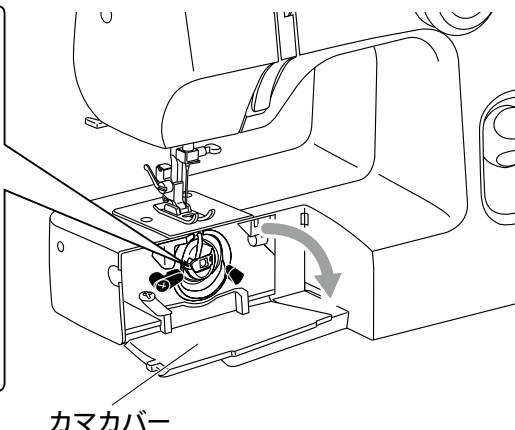
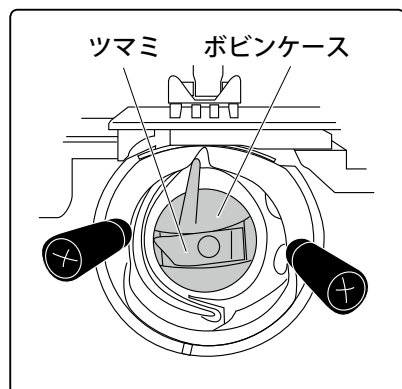
< ミシン右横図 >



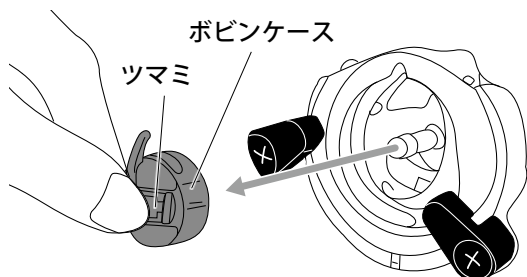
【1】『はずみ車』を手前に回し、
『針』を上にします。



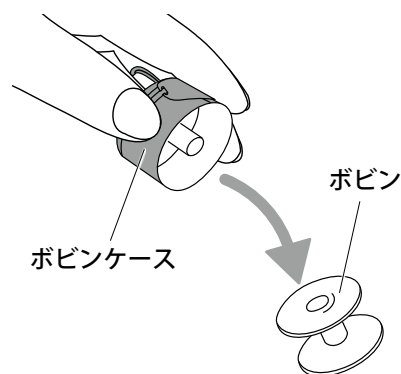
【2】『補助テーブル』をはずします。



【3】『カマカバー』を開きます。



【4】『ボビンケースのツマミ』をしっかりと
おこし、つまんだまま引き抜きます。



【5】『ボビンケースのツマミ』を閉じると
中の『ボビン』を取り出せます。
*『ボビン』が貼り付いて落ちない場合は
つまようじなどで軽く引き出してください。

下糸の巻きかた

* ボビンは家庭用プラスチックボビン (高さ 11.5mm×直径 20.5mm) をご使用ください。
(異なるボビンをご使用しますとミシンの故障の原因になる恐れがあります)



注意



・電源スイッチを『OFF』にする。
突然動く恐れがあります。

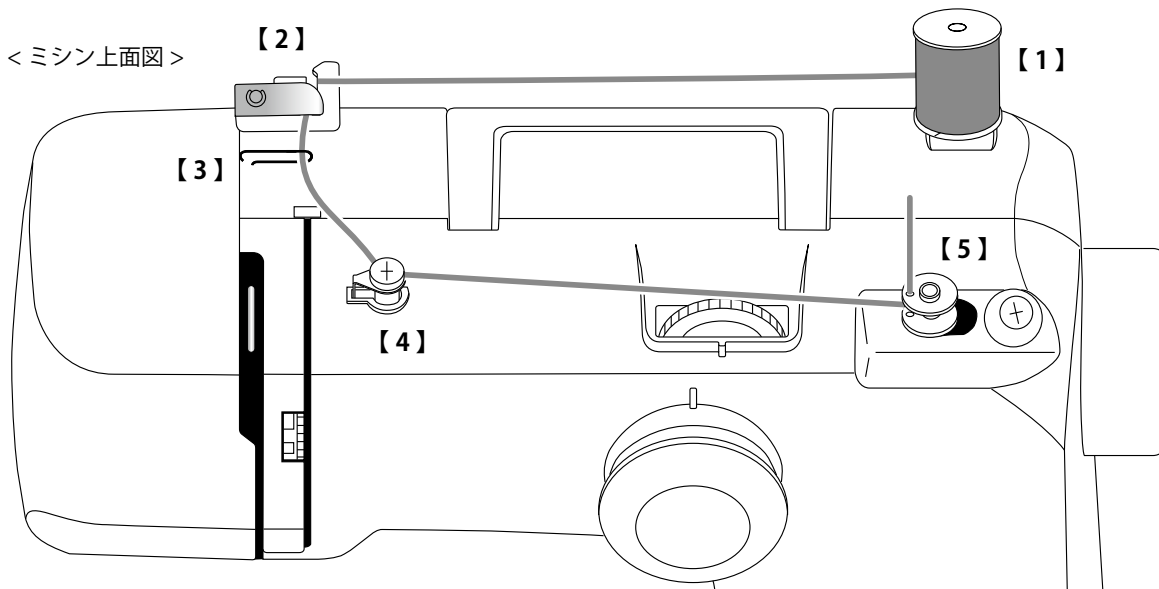


・下糸巻きの作業中は下糸巻き軸やボビンに触れない。



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

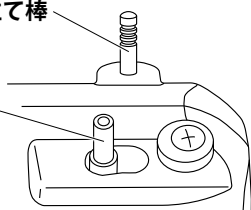
<ミシン上面図>



①

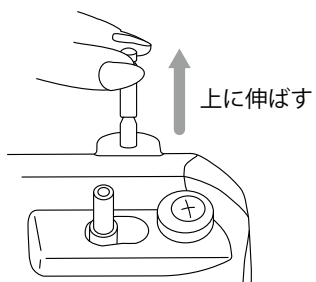
糸立て棒

下糸巻き軸



【1】『糸立て棒』を上にも伸ばします。
『フェルト』、『糸こま』の順番に入れます。

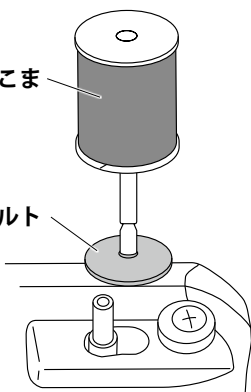
②



③

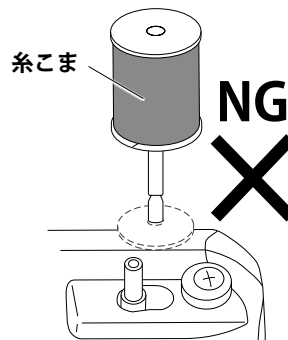
糸こま

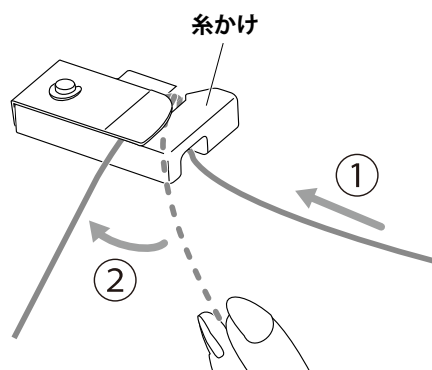
フェルト



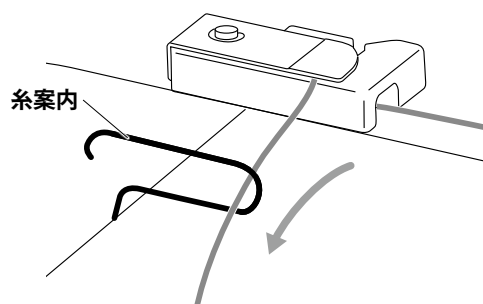
注意

『フェルト』を使用しない場合、スムーズに糸が流れず、『糸立て棒』などに糸が絡んでしまうことがあります。

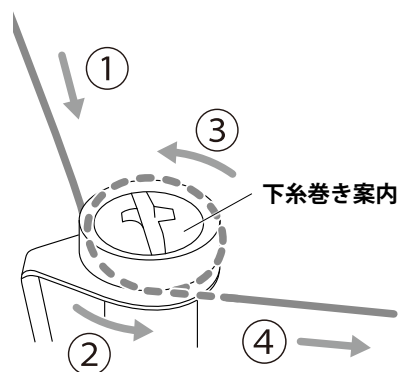




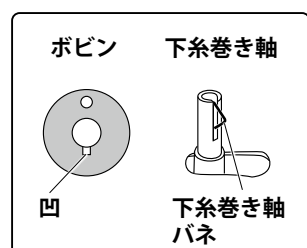
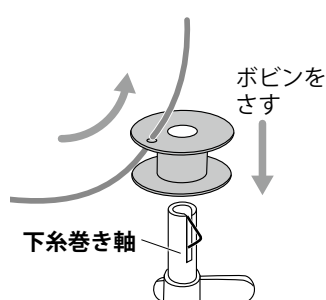
【2】『糸かけ』に糸をかけます。



【3】『糸案内』に糸をかけます。



【4】『下糸巻き案内』に一回転させ、奥までしっかり糸をかけます。

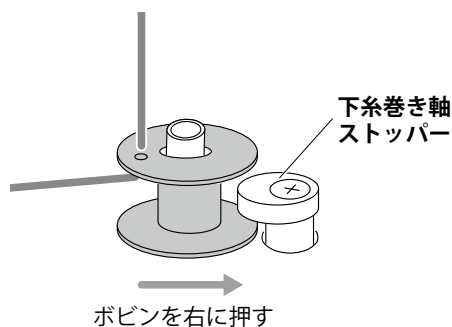


【5】『ボビン』の穴に内側から糸を通し、『ボビン』を『下糸巻き軸』にさします。
*『ボビン』を『下糸巻き軸』にさすとき、『ボビンの凹』と『下糸巻き軸バネ』を合わせてください。

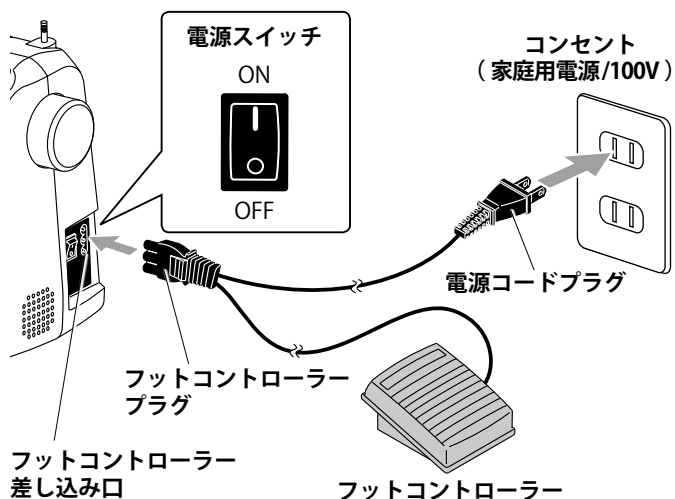


注意

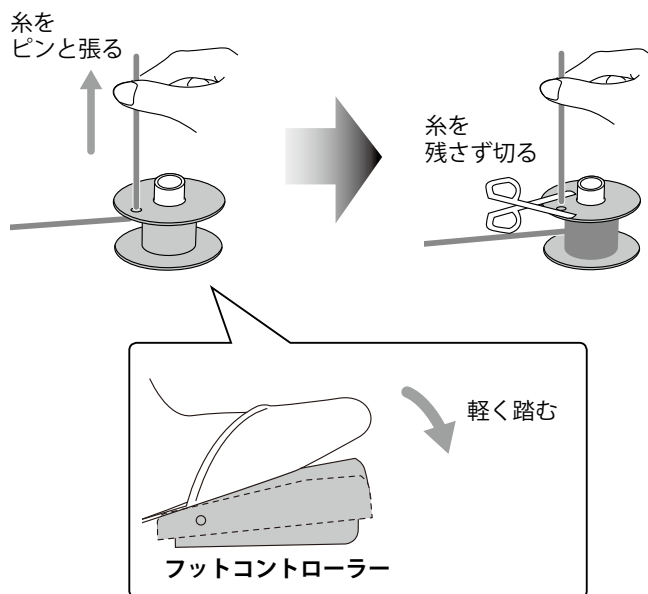
『ボビンの凹』と『下糸巻き軸バネ』を合わせないと糸を巻くとき、『ボビン』が空回りして糸が巻けません。



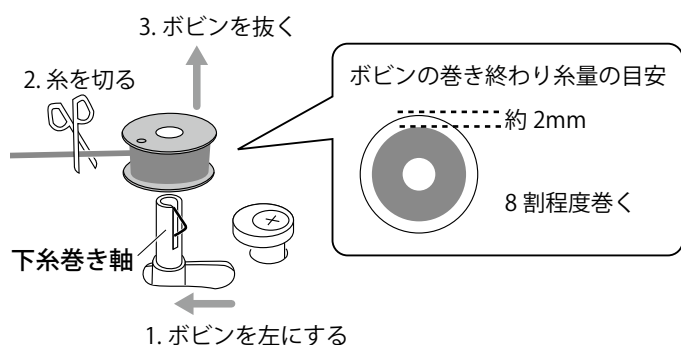
- 【6】『ボビン』を右に押し、『下糸巻き軸』を右に移動させます。



- 【7】『フットコントローラープラグ』をマシン側の『フットコントローラー差し込み口』の向きを合わせてさし込み、コンセントに『電源コードプラグ』をさし込みます。
- 【8】『電源スイッチ』を『ON』にします。
(『ランプ』が点灯します)



- 【9】糸を持ったまま『フットコントローラー』を軽く踏み込み、『ボビン』の軸に上から下まで糸を巻き付けます。
- 【10】ミシンを一度止め、持っていた糸を『ボビン』の穴から残さず切ります。



- 【11】『フットコントローラー』を深く踏み込み、糸を巻きます。糸が巻き終わったら『フットコントローラー』から足を離してミシンを止めます。

『下糸巻き軸』を左に戻し、糸を切り『ボビン』を抜きます。

下糸のセット



注意

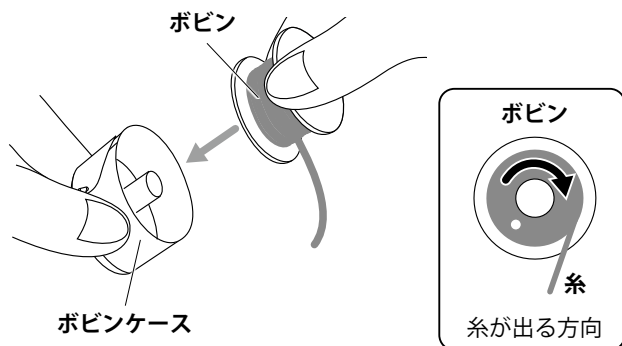


・電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。

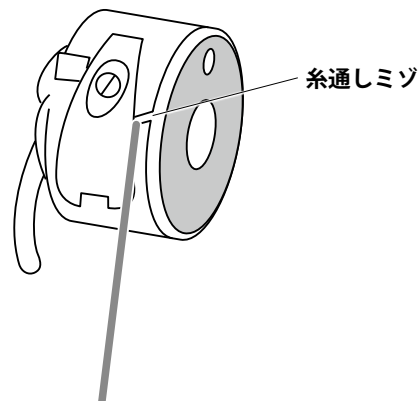


・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

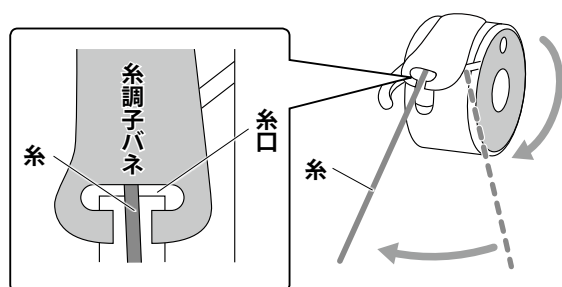
● ボビンケースにボビンを入れる



- 【1】『ボビン』から糸を10cm程引き出し、糸が右回りになるように『ボビンケース』の中に入れます。

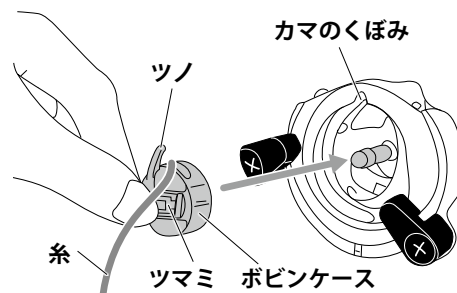


- 【2】糸の端を持ち、『ボビンケース』の『糸通しミゾ』に入れます。

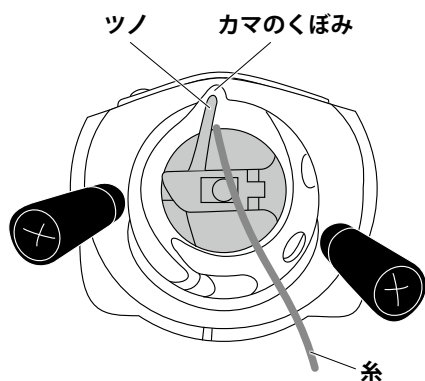


- 【3】『ボビン』が回転しないように、押えながら糸を左に引き、『糸口』まで糸を引きます。
* 糸を引いたとき、『ボビン』がスムーズに回転しない場合は『ボビン』や『ボビンケース』が変形している糸を巻き過ぎているなどの恐れがあります。

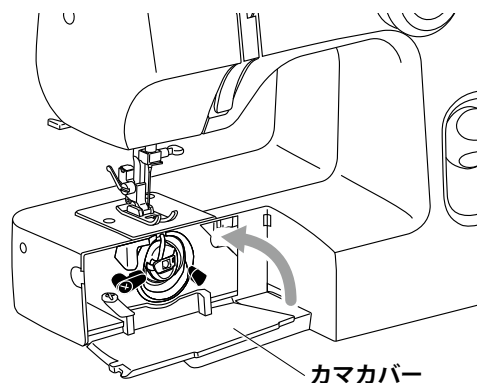
● ボビンケースをカマに入れる



- 【4】『ボタンケースのツマミ』をしっかりと起こして持ち、『ツノ』を『カマのくぼみ』に入るように合わせ、奥までさし込みます。
* 『ボタンケースのツマミ』が閉じていると『ボビンケース』が奥まで入りません。



- 【5】『ボビンケース』が固定されたことを確認して糸を手前にたらしおきます。
* 『ボビンケース』が回転する場合は奥まで入っていません。『ボビンケース』をもう一度入れ直してください。



- 【6】『カマカバー』を閉じ、『補助テーブル』を取り付けます。
* 『カマカバー』を閉じるとき糸を挟まないように注意してください。

上糸のかけかた



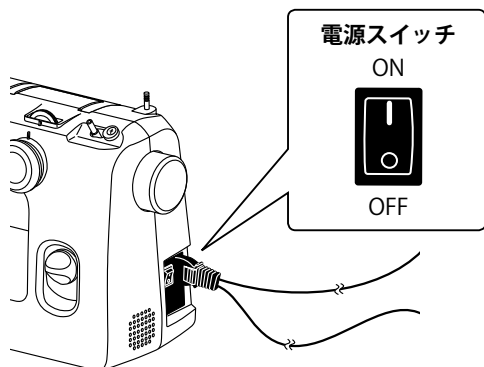
注意



・電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。

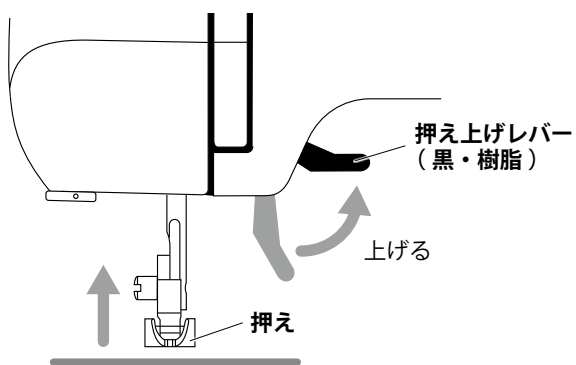


・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



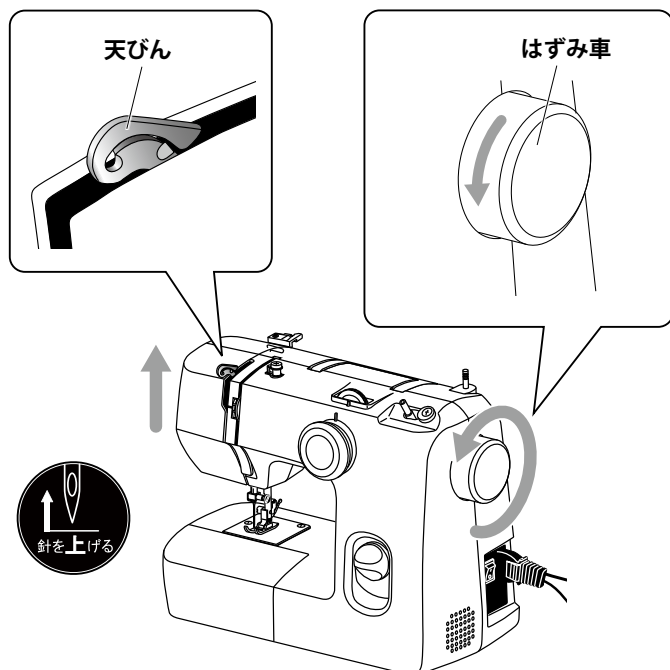
【1】『電源スイッチ』を『OFF』にします。

< ミシン正面図 >

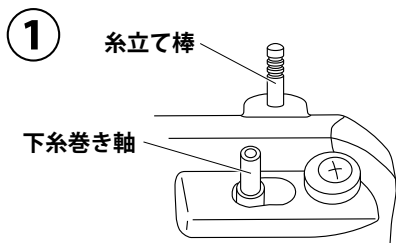
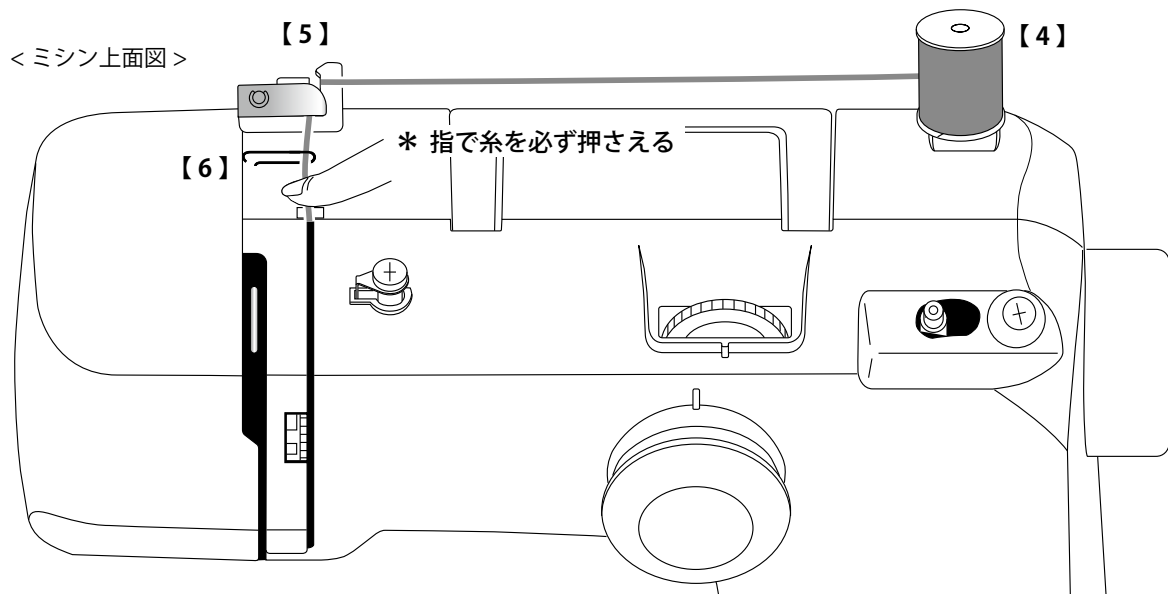


【2】『押え上げレバー (黒・樹脂)』で
『押え』を上げます。

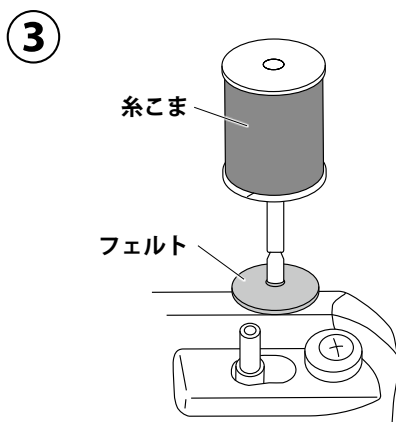
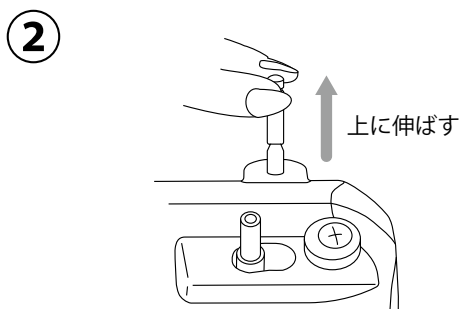
* 『押え』が下がっていると『糸調子皿』が
閉じ、正しく糸がかかりません。



【3】『はずみ車』を手前に回し、
『針』と『天びん』を上にします。

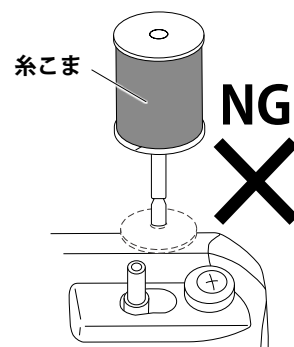


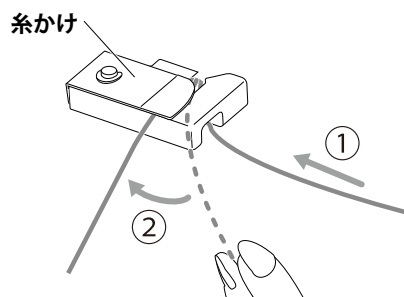
【4】『糸立て棒』を上には伸ばします。
『フェルト』『糸こま』の順番に入れます。



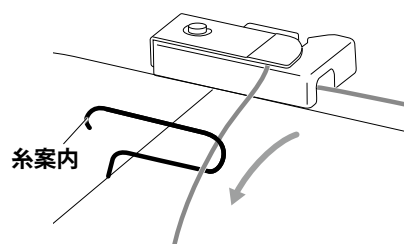
⚠ 注意

『フェルト』を使用しない場合、スムーズに糸が流れず、『糸立て棒』などに糸が絡んでしまうことがあります。

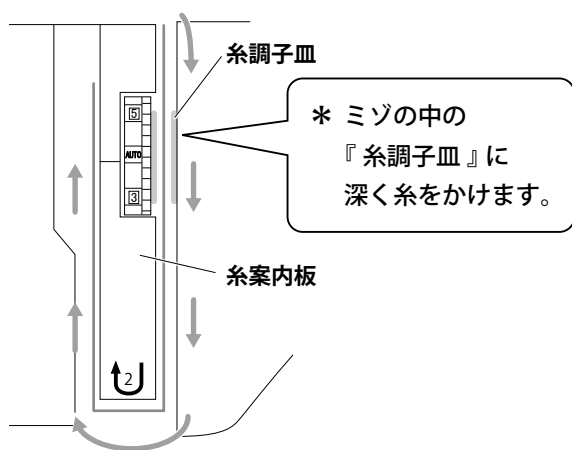




【5】『糸かけ』に糸をかけます。

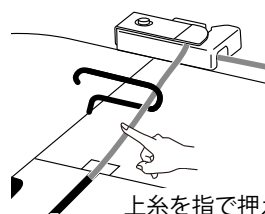


【6】『糸案内』に糸をかけます。



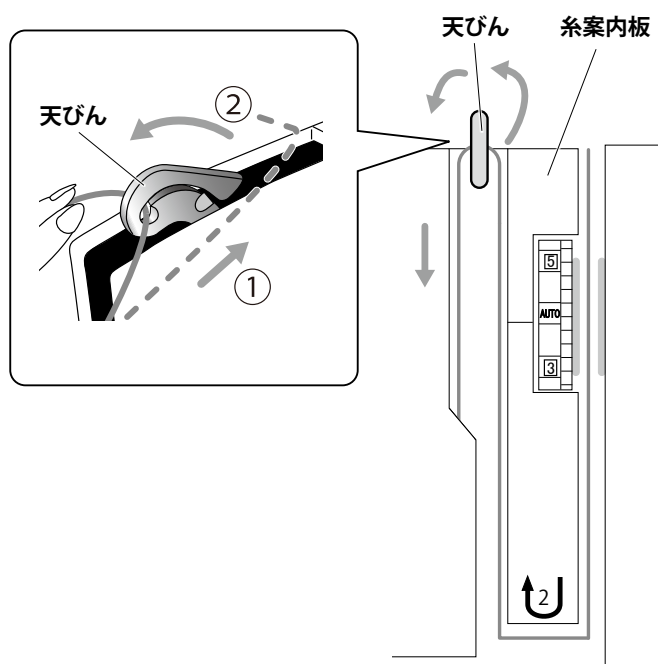
【7】『糸案内板』にそって糸を下ろし、左上に引き上げます。

ポイント



上糸を押さえながら
『糸案内板』にそって
ミゾの中深く糸を
通します。

上糸を指で押える

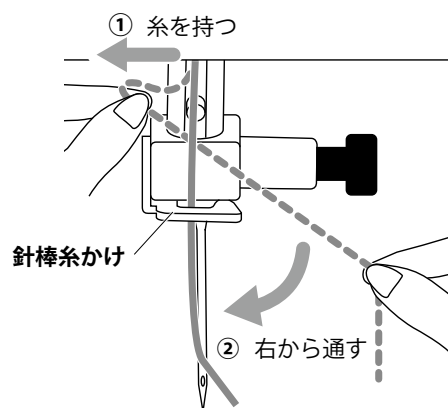


【8】『糸案内板』にそって上げた糸を
『天びん』に右から左に糸をかけます。

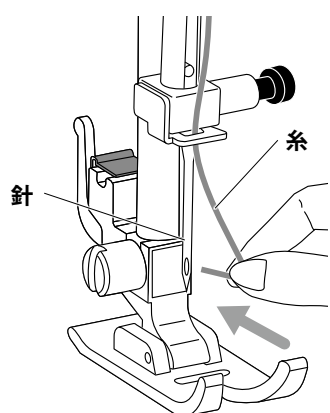
【9】『天びん』から『糸案内板』にそって、
糸を下ろします。

* 『はずみ車』を手前に回して、『天びん』の穴に
糸がかかっているか確認してください。

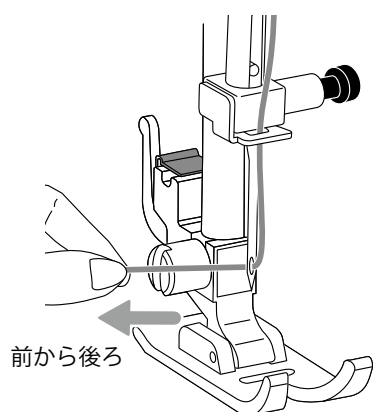
* 『天びん』の奥に糸が入った状態で動かすと
糸が取れなくなり故障の恐れがあります。



【10】『針棒糸かけ』に右から糸をかけます。

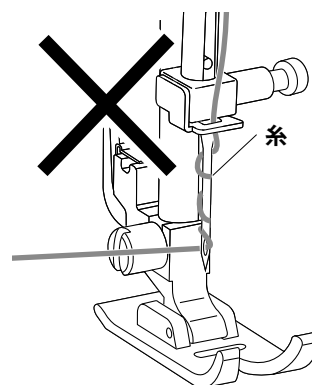


【11】糸を『針』の前から後ろに通します。

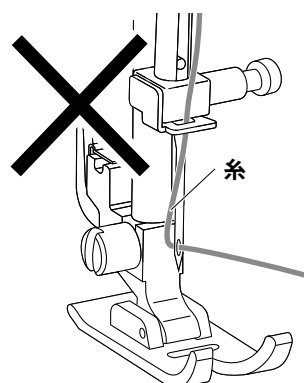


⚠ 注意

・針に糸が巻きついてしまうと正しく縫えません。



・糸を通す方向が逆の場合、正しく縫えません。



下糸の引き上げかた



注意

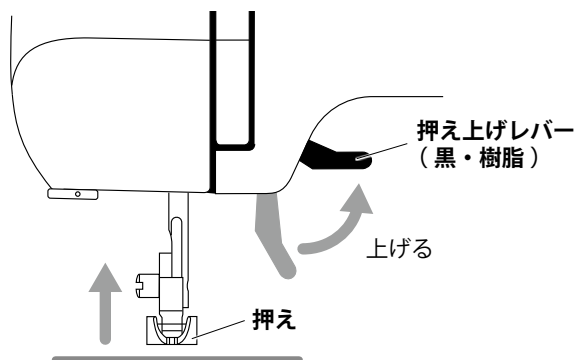


・電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。

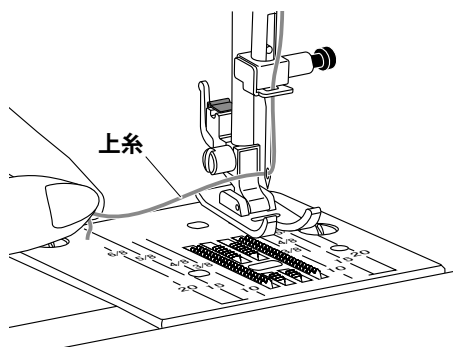


・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

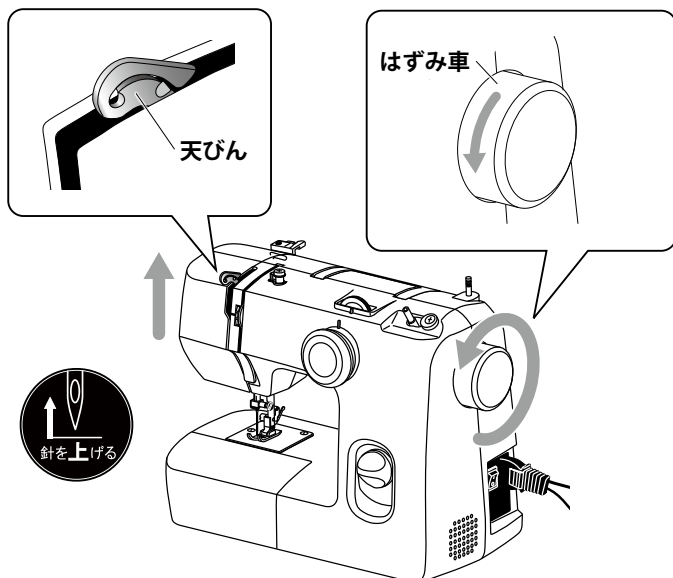
< ミシン正面図 >



- 【1】『押え上げレバー（黒・樹脂）』で『押え』を上げます。



- 【2】上糸の端を持ちます。



- 【3】上糸を軽く持ったまま『はずみ車』を手前に1回転し、『針』を上下させ『針』と『天びん』を上げます。

* 上糸は『針』の左斜め後ろ付近手前に持ってください。

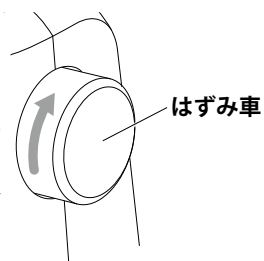


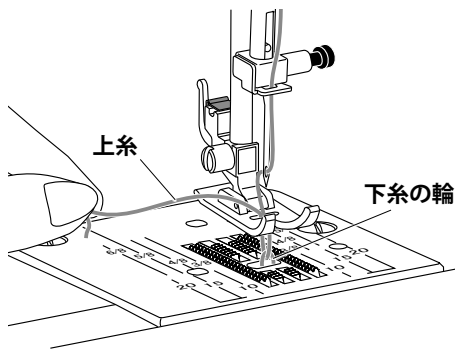
注意

- ・『天びん』が下がっていると糸が『カマ』に引っかかり引き出されません。
- ・『はずみ車』を後ろ側に回すと『カマ』の中を上糸が流れず『下糸の輪』が引き出されません。

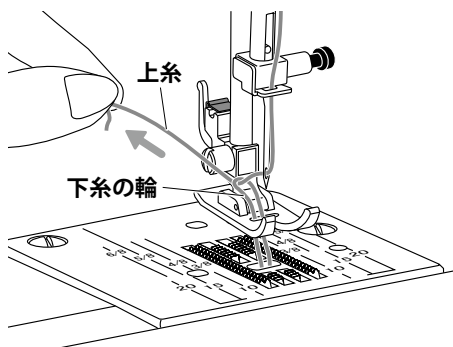
< ミシン右横図 >

NG
X

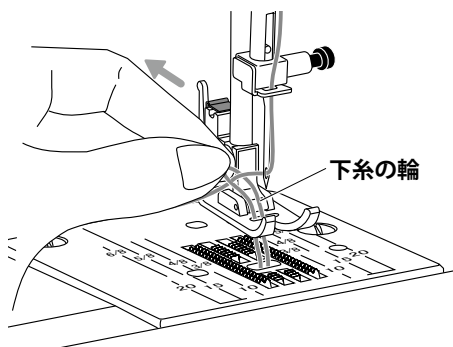




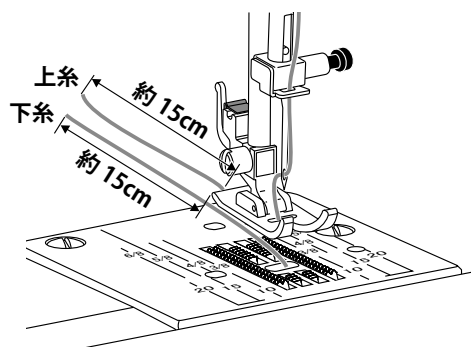
【4】 上糸を左上側に引くと『下糸の輪』が『針板』の針穴から確認できます。



【5】 上糸を『押え』より上まで引き上げます。



【6】 『下糸の輪』をつまみ、下糸を引き出します。



【7】 上糸と下糸をそろえ、『押え』の下に通し15cm 程を後ろ側に引き出します。

⚠ 注意

・上下の糸が 15cm 以下の場合、縫い始めに針から上糸が抜けて内部に引っかかりミシンが動かなくなることがありますので必ず 15cm 程引き出してください。

試し縫い（直線縫い）



注意



・縫い模様を選択するときは、針を上げる。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

ポイント

● ミシンをより快適に使うために

＊ 縫い損じを防ぐため、次のことを実施してください。

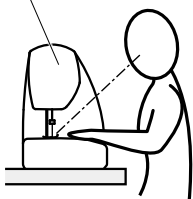


注意



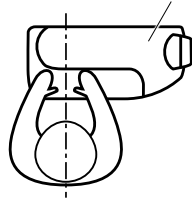
・安定した場所に設置する。 ・作業スペースを十分に確保する。
・周囲に物を置かない。
はずみ車や針など動く部分が露出しています。ケガをする恐れがあります。

ミシン

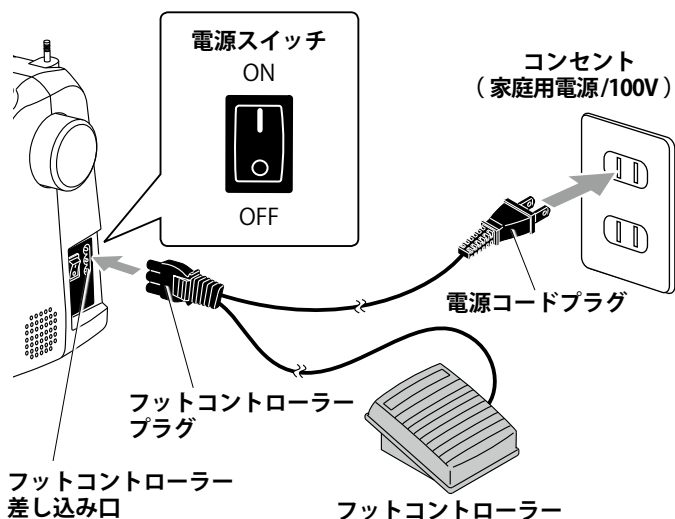


針先が無理なく見える位置に
ミシンを設置してください。

針の中心 ミシン



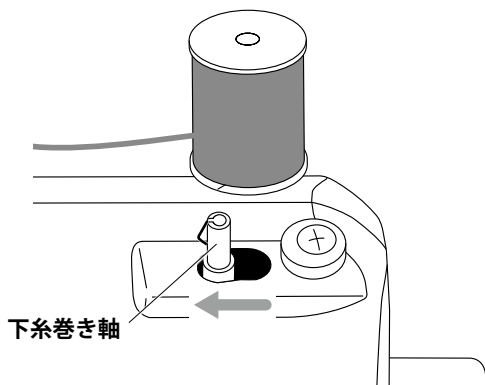
針の中心と身体の中心が
一致するようにミシンを
設置してください。
＊ 中心がずれてしまうと布も
ずれて進んでしまいます。



- 【1】『フットコントローラープラグ』をミシン側の『フットコントローラー差し込み口』の向きを合わせてさし込み、コンセント（家庭用電源/100V）に『電源コードプラグ』をさし込みます。
- 【2】『電源スイッチ』を『ON』にします。
（『ランプ』が点灯します）

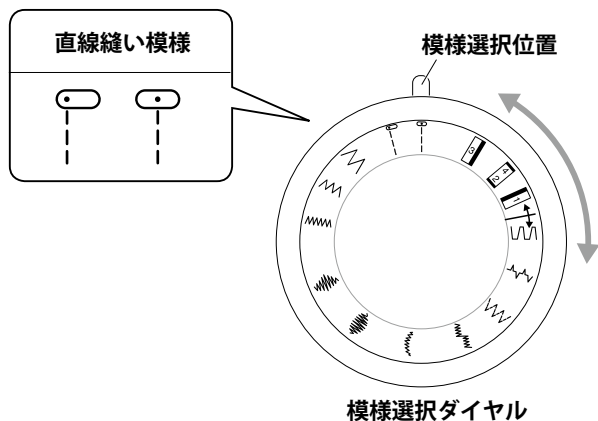
- 【3】『下糸巻き軸』が左側にあるか確認します。

＊ 『下糸巻き軸』が右側にある場合、
『下糸巻き軸』を左側にします。



注意

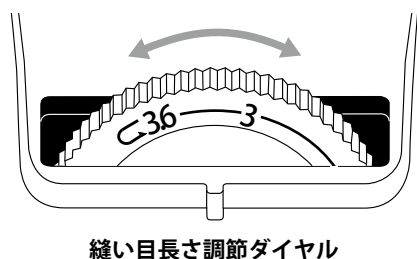
『下糸巻き軸』が右側にあると
針は動きません。



【4】『模様選択ダイヤル』で直線縫いの模様を選びます。

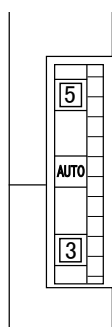
⚠ 注意

針が布に刺さった状態で『模様選択ダイヤル』を回さないでください。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。



【5】『縫い目長さ調節ダイヤル』で好みの縫い目の長さを選びます。
(P8の縫い目長さ調節ダイヤルを参照してください)

上糸調節ダイヤル



【6】『上糸調節ダイヤル』を『AUTO』に合わせます。

⚠ 注意

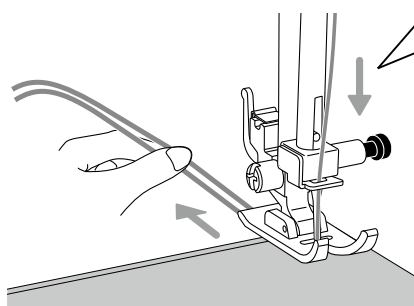
布の厚さや種類によっては
『上糸調節ダイヤル』を回し調節します。
(P27の糸調子の合わせかたを参照してください)

【7】布を『押え』の下に置き、『上糸』と『下糸』をミシンの後ろ側で持ちながら『はずみ車』を手前に回して、縫い始める位置に針を刺します。

⚠ 注意

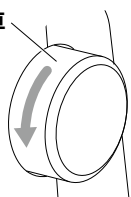
- ・上糸と下糸をミシンの後ろ側で持ちながら針を刺さないと、縫い始めときに糸絡みが発生します。
- ・上糸が15cm以下の場合、縫い始めに針から上糸が抜けて内部に引っかかり、ミシンが動かなくなる恐れがあります。
必ず15cm以上引き出してください。

上糸・下糸を後ろ側で
持ちながら、はずみ車を回す

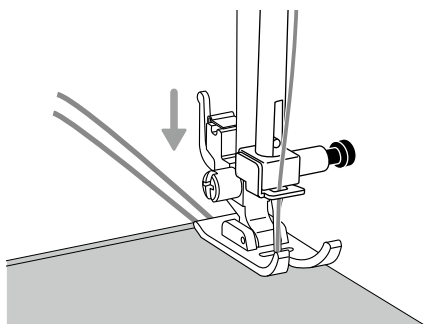
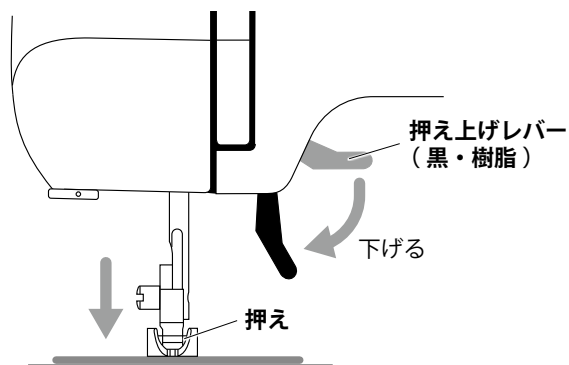


< ミシン右横図 >

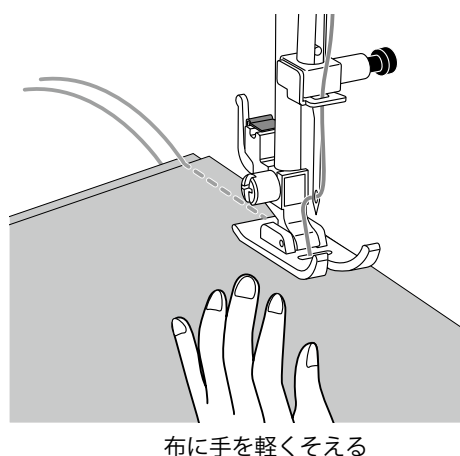
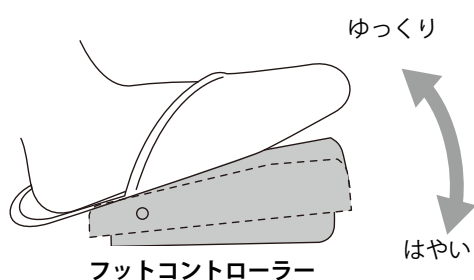
はずみ車



< ミシン正面図 >



- 【8】『押え上げレバー（黒・樹脂）』で『押え』を下げます。

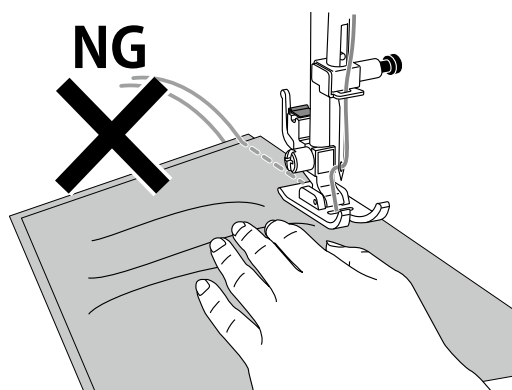


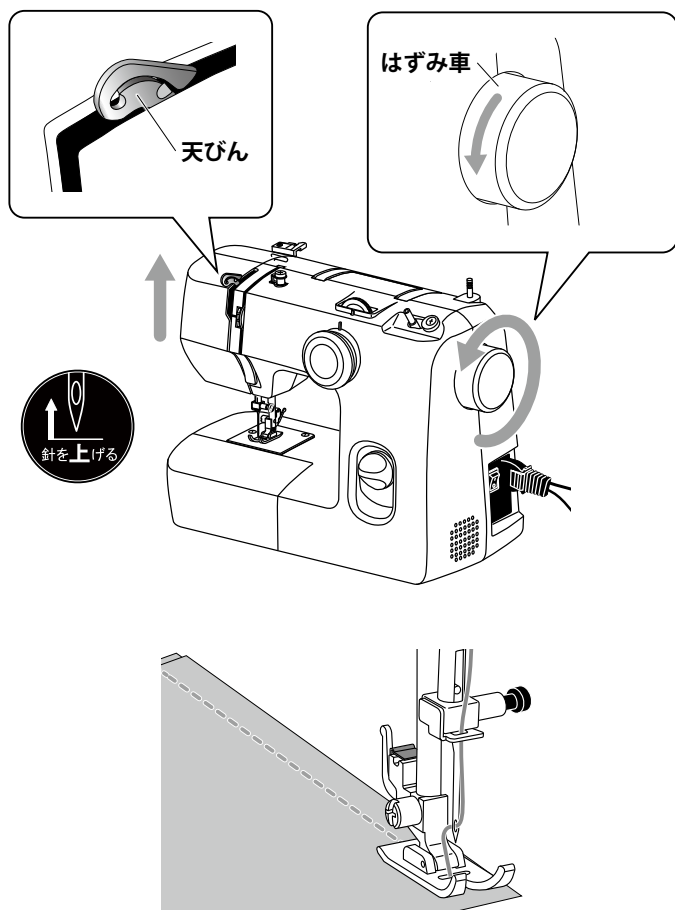
- 【9】『はずみ車』を手前に回して3、4針進めて縫えるか確認します。
 少しずつ『フットコントローラー』を踏み込み縫い始めます。
- 【10】布に手を軽くそえ、布の進む方向を修正・補助します。

* 薄布や送りの悪い布を縫うときは、ハترون紙などの紙を布の下に敷くと順調に縫うことができます。

 注意

・布に手をそえるときは、押し進めないでください。
 糸調子が乱れたり、針が折れる恐れがあります。





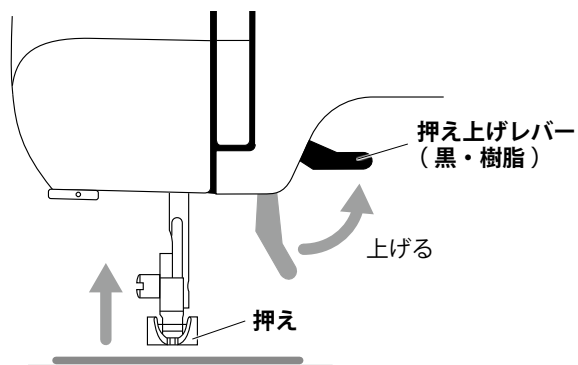
【11】縫い終わりまで縫ったら『フットコントローラー』から足を離してミシンを止めます。

【12】『はずみ車』を手前に回して、『針』と『天びん』を一番上まで上げます。

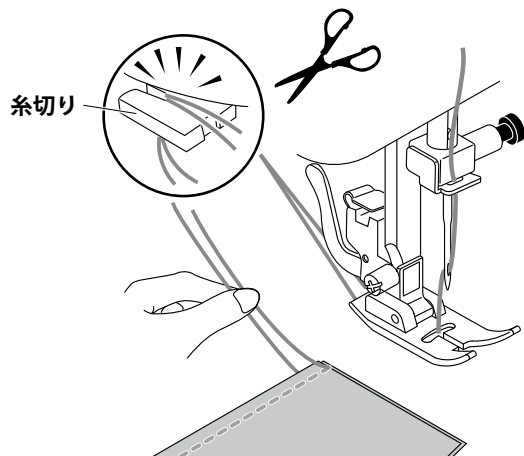
*『針』と『天びん』が一番上まで上がっていないと上糸が『カマ』の内部に引っかかり、スムーズに布を引き出すことができません。

*『はずみ車』を後ろ側に回さないでください。上糸がはずれ、ミシン内部に糸が巻き込む恐れがあります。

< ミシン正面図 >



【13】『押え上げレバー (黒・樹脂)』で『押え』を上げます。



【14】布を引き出し、『糸切り』で糸を切ります。

*『針』と『天びん』が一番上まで上がっていないと上糸が『カマ』の内部に引っかかり、スムーズに布を引き出すことができません。

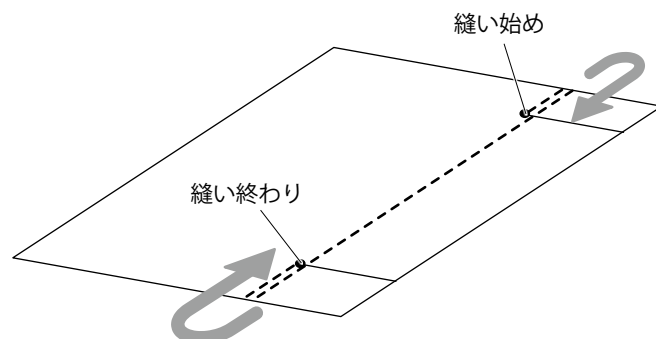
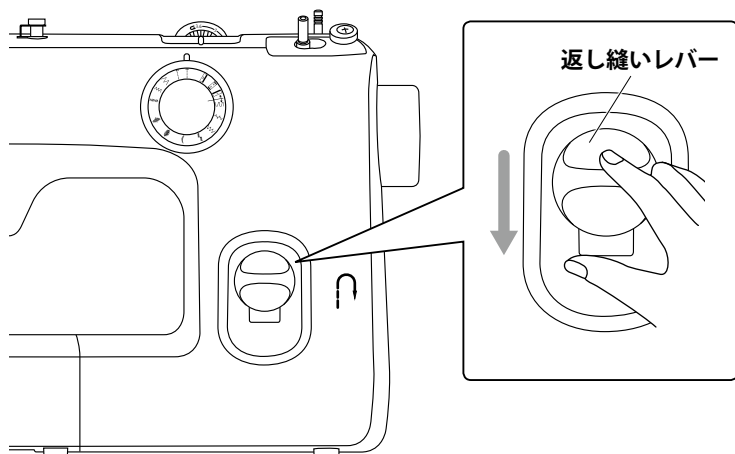
返し縫い



注意



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



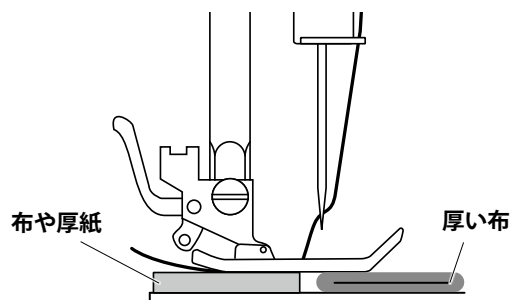
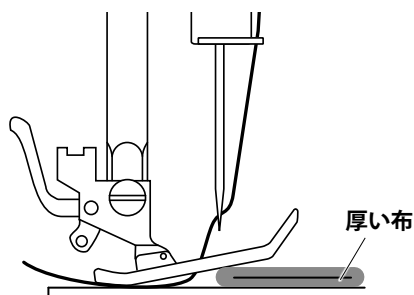
ミシンが動いているときに、『返し縫いレバー』を押し下げている間は返し縫いになります。

＊ 縫い始めと縫い終わりに返し縫いを行うとほつれ止めになります。

＊ 布の端の寸前から返し縫いを行うと、布が食い込んでしまう場合があります。

厚い布や段差を縫う

縫い始めや段差を縫うとき



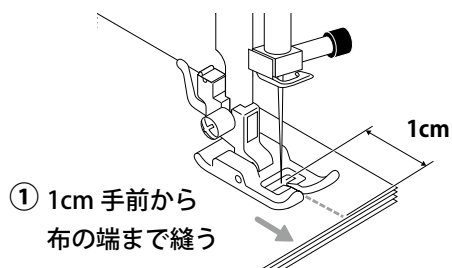
厚い布を布の端から縫い始めるときや持ち手を縫うときに『押え』が傾くと、布が進まなくなることがあります。その場合、『押え』の下に布と同じ厚さの布や厚紙を置き、傾きをなくすと順調に縫い始めることができます。

＊ 厚い布を縫うときは、市販の『家庭用ミシン針：16番』を使用されることを推奨します。

● 厚い布の返し縫い

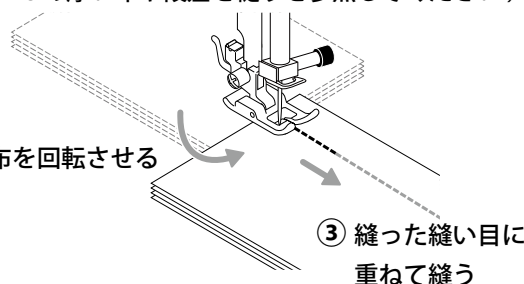
＊ 段差に注意

(P25の厚い布や段差を縫うを参照してください)



【1】 布の端から1cm手前のところに針を刺しそこから布の端まで縫います。

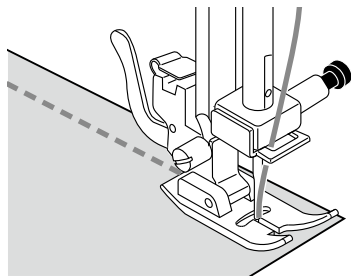
② 布を回転させる



【2】 針を刺した状態のまま『押え』を上げて、布を回転させます。

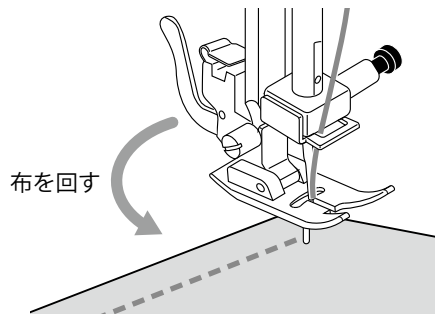
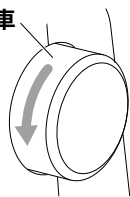
【3】 『押え』を下げ、先ほど縫った縫い目に重ねて縫います。

縫い方向を変える



< ミシン右横図 >

はずみ車



布を回す

【1】 布の角まで縫い、ミシンを止めて『はずみ車』を手前に回し、針を一番下まで下げます。

* 針が一番下まで下がっていないと糸絡みの原因になります。

【2】 『押え』を上げ、針を軸にして布を回転させ縫い方向を変えます。

再び、『押え』を下げ、縫い始めます。

針、糸、布の関係



注意



・表に記載している糸以外は使用しないでください。
故障の原因になる恐れがあります。

このミシンは普通布に適した 14 番の針が標準装備されています。

● 下記の表は参考です。必ず試し縫いをして、縫い目をご確認ください。

	布の種類	針の種類・番号	糸の種類・番号
薄布	一般裏地、ローン、ジョーゼット、レース、キュプラ など	9、11 番、14 番	綿 60 ～ 100 絹 50 ～ 90 化繊糸 60 ～ 90
普通布	一般服地、ブロード、ソフトデニム、サテン、パイル、ギンガム など	11、14 番	綿 60 ～ 90 絹 50 ～ 90 化繊糸 60 ～ 90
厚布	キルティング、※フリース、ツイード、デニム、フェルト など	14、16 番	綿 50 絹 50 化繊糸 50 ～ 60
伸縮布	ニット、トリコット、スパンデックス、ジャージ など	ニット用針 11、14 番	綿 60 化繊糸 50 ～ 90 ニット用糸 50 ～ 90

● 針は数字が大きくなるほど太くなります。 ● 糸は数字が大きくなるほど細くなります。

(針の交換は P32 の針の取り替えかたを参照してください)

● きれいに縫うためには、布に合った針と糸をご使用ください。(上記の表をご参照ください)

上糸と下糸は同じ種類・同じ太さの糸をご使用ください。

● 針は 14 番が付属しています。9、11、16 番の針やニット用針 11、14 番は付属しておりません。

● 針は家庭用ミシン針 (HA × 1)、糸は家庭用ミシン糸とご指定の上お買い求めください。

※ フリース、ベルベット、バスタオルなどの毛足が長い布は、糸絡みが発生しやすいので、注意が必要です。

※ カタン糸、レジロン糸 (ニット用糸)、テグス糸 (透明) の糸は、糸絡みが発生しやすいので、注意が必要です。

● 厚い布や固い布は、針が刺さりにくく止まってしまうことがあります。

その時は『はずみ車』を手前にゆっくり手で回しながら縫い進めてください。

(手で回しても固いときは、『はずみ車』を無理に回さないでください。故障の原因になる恐れがあります)

● 糸が古くなるに従い劣化して切れやすく糸が引きにくくなります。

(天然素材の絹の糸 (シルク糸) や綿の糸 (カタン糸) は保存状態により異なりますが、約 1 年で劣化し始めます。

● ミシン糸と手縫い糸では糸の撚り (ねじれ) 方向が異なります。手縫い糸 (右撚り) はミシンでは使用できません。

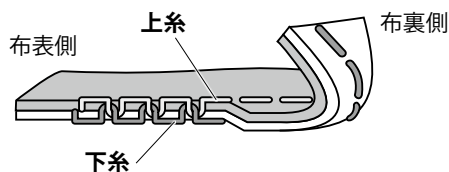
ミシン糸と表記のある糸でも右撚りになっている糸もありますので注意してください。

糸調子の合わせかた

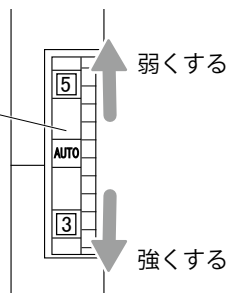
糸調子が合わない場合は、『上糸調節ダイヤル』を回して調節してください。

●正しい糸調子

上糸と下糸が布のほぼ中央で交わります。

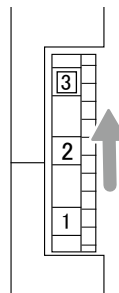
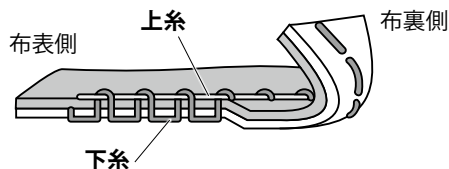


上糸調節ダイヤル



●上糸が強いとき

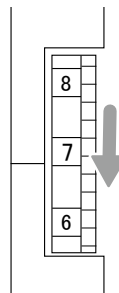
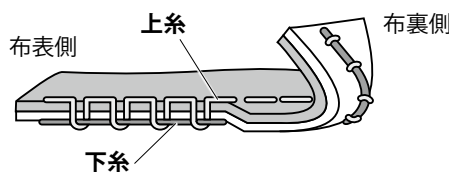
下糸が布の表に出ています。



『上糸調節ダイヤル』を数字が小さくなる方向に回します。

●上糸が弱いとき

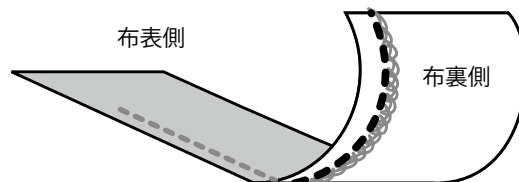
上糸が布の裏に出ています。



『上糸調節ダイヤル』を数字が大きくなる方向に回します。

●布の裏側の糸がタオル状のようになるときは

- ・『押え上げレバー』が上がっている。
- ・上糸のかけかたが間違っている。
- ・上糸の糸調子が弱過ぎる。
- ・『カマ』や『針板』に傷がある。
- ・『ボビン』の種類が異なる。



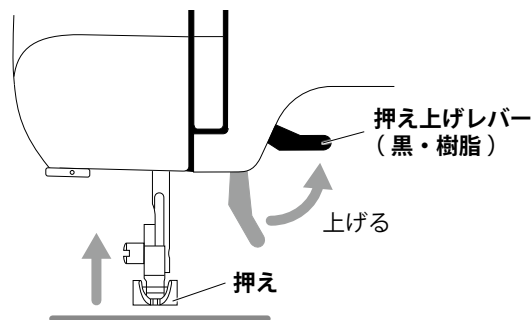
ポイント！

『押え』を上げ、上糸を全てはずし、再度上糸を正しくかけ直してください。

(P15の上糸のかけかたを参照してください)

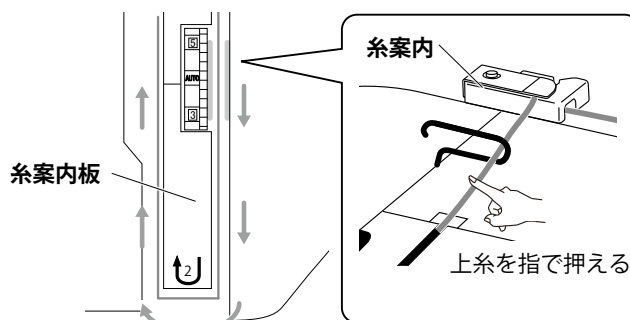
上糸を再度かけ直すとき、下の図に注意してください。

< ミシン正面図 >



『押え上げレバー (黒・樹脂)』で『押え』を必ず上げます。

＊『押え』が下がったままでは『糸調子皿』が閉じ、上糸は正しくかかりません。



『糸案内』からの糸を押えながら『糸案内板』に糸を通すことで、糸が奥までしっかり通ります。上糸を奥までしっかり通すことで糸絡み防止にもつながります。

ジグザグ縫い／縁かがり縫い

布の端のほつれを防止します。



注意



・縫い模様を選択するときは、針を上げる。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。

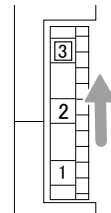


・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

押え	模様表示
 ジグザグ押え	

ポイント！

直線縫いよりも
『上糸調節ダイヤル』を
少し弱めにする
と
きれいに縫えます。



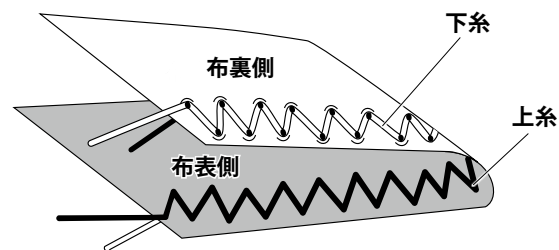
＊『縫い目長さ調節ダイヤル』で好みの
縫い目長さに調節します。

(P8の縫い目長さ調節ダイヤルを参照してください)

●ジグザグ縫い

【1】『模様選択ダイヤル』で、ジグザグ模様を選択します。

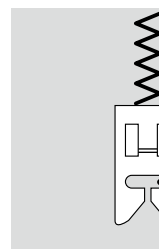
【2】『押え』を下げ、縫い始めます。



●縁かがり縫い

【1】『模様選択ダイヤル』で、ジグザグ模様を選択します。

【2】『はずみ車』を手前に回して針が右側のときに
布の端より針が少しはずれるように布を置き
『押え』を下げ、縫い始めます。



右側で針が刺さる位置は布の端
より針が少し内側に入る位置に
するときれいに仕上がります。

パッチワーク（つき合わせ）

色々な布をつなぎ合わせ、装飾や衣類の破れなどの補修にも用います。



注意

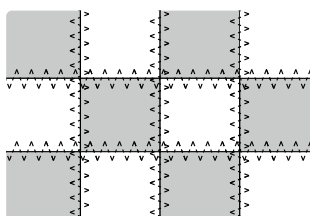


・縫い模様を選択するときは、針を上げる。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

押え	模様表示
 ジグザグ押え	

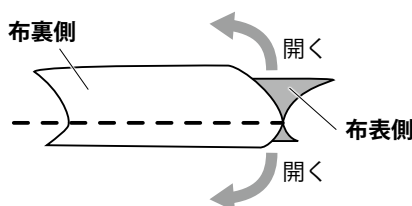


＊『縫い目長さ調節ダイヤル』で好みの
縫い目長さに調節します。

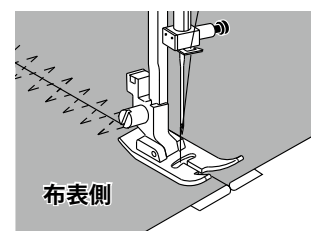
(P8の縫い目長さ調節ダイヤルを参照してください)



【1】2枚の布を中表にし、直線縫いで
縫い合わせます。



【2】縫い合わせを開きます。



【3】両方の布に模様
またがるように縫います。

スカラップ

子供服やテーブルクロスなどの布の端を装飾するときに用います。



注意



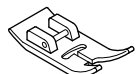
・縫い模様を選択するときは、針を上げる。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

押え

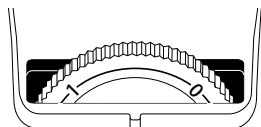
模様表示



ジグザグ押え

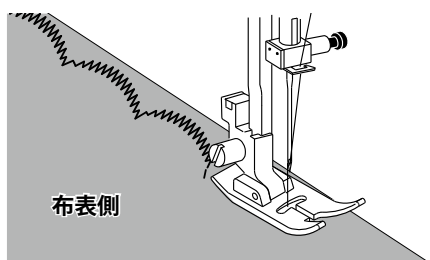


ポイント！

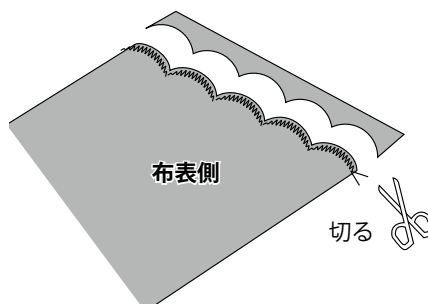


縫い目長さ調節ダイヤル

『縫い目長さ調節ダイヤル』で
0 と 1 の間ぐらいに調節します。
(P8 の縫い目長さ調節ダイヤルを
参照してください)

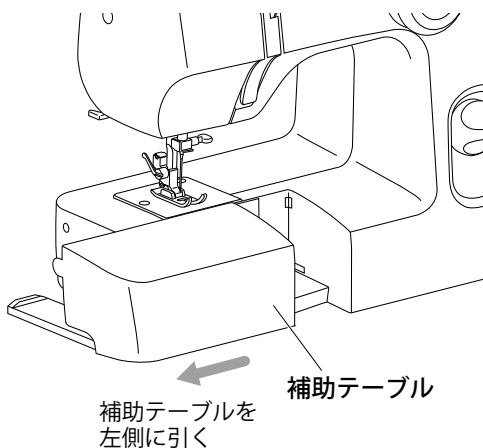


【1】 布の端にそって縫い合わせます。

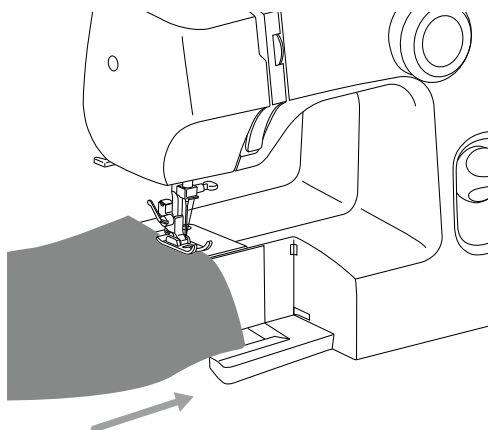


【2】 糸を切らないように注意して縫い目に
そって布を切ります。

フリーアーム



【1】 『補助テーブル』をはずします。



【2】 ズボンの裾や袖のような筒状のものを
左側からさし込んで縫うことが
できます。

ボタンホール縫い

ボタンの大きさにあったボタンホールを縫うことができます。



注意



- ・押え交換時は、電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとかガをする恐れがあります。
- ・縫い模様を選択するときは、針を上げる。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。

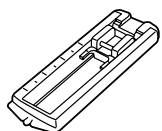


- ・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

縫い損じを防ぐため、製品に縫う前に必ず別布でボタンホールを作り、ボタンが通るかで確認ください。

押え

模様表示



ボタンホール押え

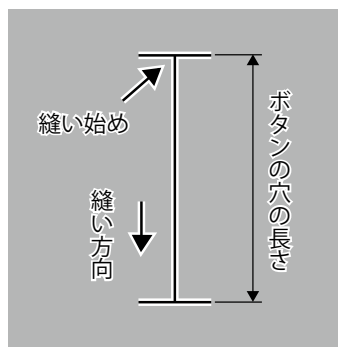
3

4
2

1

ポイント

伸縮性の布や薄い布は不織布（芯地）を裏に貼るとよりきれいに仕上がります。



- 【1】 ボタンの大きさと厚さ、布の種類に応じてボタンの穴の長さを決め、ボタンホールを作る布に印を付けます。

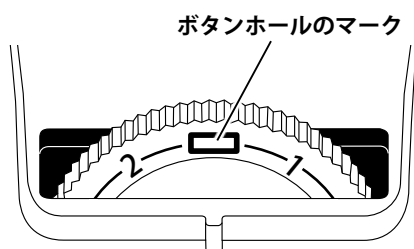
＊ 布に印を付けておくと、縫う方向を間違えません。

ボタンの穴の長さ = ボタンの直径 + ボタンの厚み



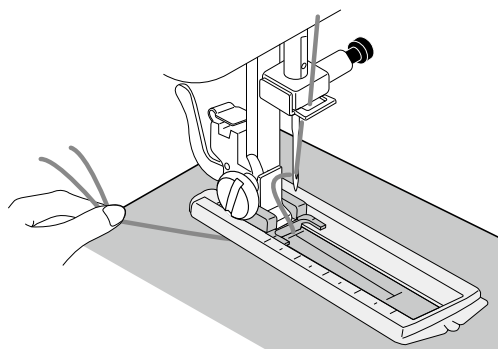
ボタンの厚み

ボタンの直径

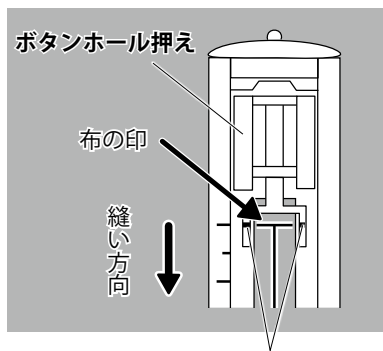


縫い目長さ調節ダイヤル

- 【2】 『縫い目長さ調節ダイヤル』を『ボタンホールのマーク』に合わせます。



- 【3】 『ボタンホール押え』を手前に引いておきます。
- ＊ 『ボタンホール押え』の交換は P7 の押えの取りはずしかた・取り付けかたを参照してください。
 - ＊ 『ボタンホール押え』に交換するとき、『押え上げレバー（黒・樹脂）』を 2 段目まで上げて交換してください。（P7 の押え上げレバーを参照してください）



ボタンホール押えの赤い線

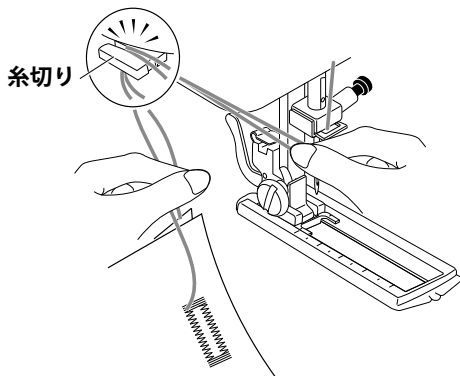
- 【4】 布に付けたボタンホールの印と『ボタンホール押えの赤い線』を合わせて、布を置きます。
『押え上げレバー（黒・樹脂）』で下げます。

* 布が斜めになっていると、ボタンホールが布に対して斜めに作られますのでご注意ください。

【5】 以下の手順で縫い始めます。 * 『模様選択ダイヤル』を回すときは、必ず針を上げてください。

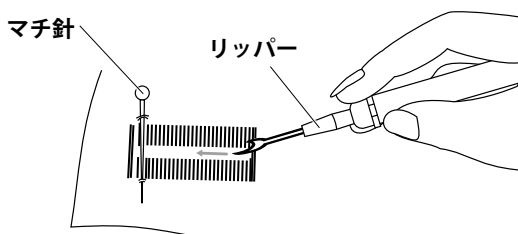
1. 『模様選択ダイヤル』をボタンホール模様 1 に合わせて上糸を軽く持ち、『フットコントローラー』を軽く踏み込んで縫い始めます。縫い始めから縫い終わりまで縫い、ミシンを止めて持っている上糸を切ります。
2. 『模様選択ダイヤル』を回して、ボタンホール模様 2、4 を選択し、『フットコントローラー』を踏み込み、5～6 針かんぬき止めをして『フットコントローラー』から足を離してミシンを止めます。
3. 『模様選択ダイヤル』を回して、ボタンホール模様 3 を選択し、『フットコントローラー』を踏み込み、縫い終わりから縫い始めまで縫い、ミシンを止めます。
4. 『模様選択ダイヤル』を回して、ボタンホール模様 2、4 を選択し、『フットコントローラー』を踏み込み、5～6 針かんぬき止めをしてミシンを止めます。

模様	1	2	3	4
縫いかた	縫い始め 縫い終わり	5～6 針かんぬき止め	縫い始め 縫い終わり	5～6 針かんぬき止め



- 【6】 『押え上げレバー（黒・樹脂）』で『ボタンホール押え』を上げ、『糸切り』で糸を切ります。

* 針と『天びん』が一番上に上がった状態で布を取り出します。



注意



・ リッパーの先端に手をそえない。
ケガをする恐れがあります。

- 【7】 ボタンホールの穴に付属の『リッパー』を刺し、押しながらボタン穴を切り開きます。

* マチ針をかんぬき部分に刺しておくと、ボタンホールの切り開き過ぎを防げます。

針の取り替えかた



注意

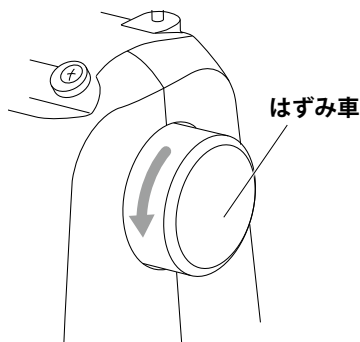


・電源スイッチを『OFF』にし電源コードプラグをコンセントから抜く。
突然動くとケガをする恐れがあります。



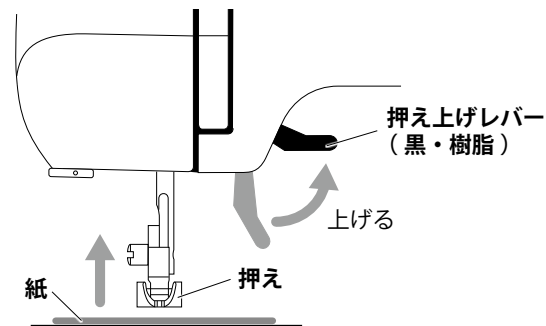
- ・針先に注意する。 ケガをする恐れがあります。
- ・針は平らな面を後ろ向きに付ける。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。また、縫い目ができず縫えません。
- ・針を交換するときは専用の付属品で交換する。
縫っているときに針が抜け、ケガをする恐れがあります。

< ミシン右横図 >

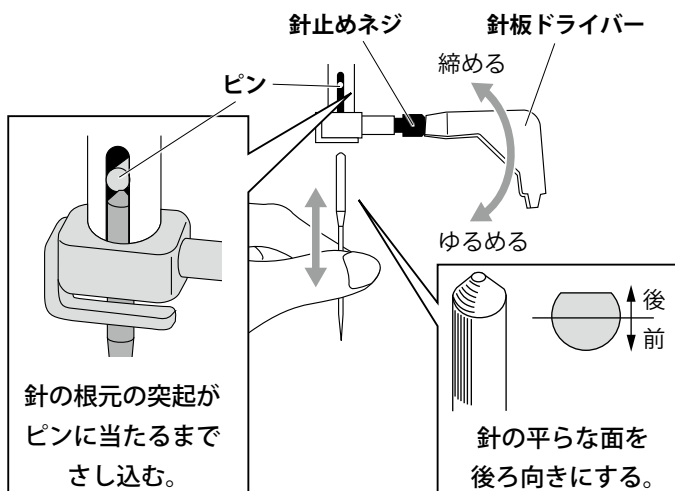


【1】『はずみ車』を手前に回し、針を一番上にします。

< ミシン正面図 >



【2】『押え上げレバー (黒・樹脂)』を上げ、
『押え』の下に布や紙などを敷き、『押え上げ
レバー (黒・樹脂)』を下げます。
* 針が『針板』の針穴に落下するのを防止します。

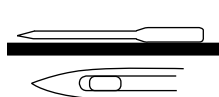


【3】『針板ドライバー』を使用し、針を交換します。
はずす：取り付けられている針を持ち、
『針止めネジ』をゆるめ、
針を下に引き抜きます。
付ける：平らな面を自分から見えな
いように持ち、『ピン』に当たる
までさし込み、『針止めネジ』
を締めます。

正しい針の選びかた

- ・曲がった針は使用しないでください。
- ・家庭用ミシン針 (HA × 1) をご使用ください。
- ・目飛び、糸絡みがある場合は、ミシンに付いている針先が曲がっていたり、つぶれていないかを確認してください。
- ・不良の針を使い続けると、きれいに縫えないばかりでなく、『針板』や『カマ』に傷をつけます。新しい針に交換してください。

○ 正しい針



× 悪い針



全体に曲がっている



先端のつぶれ



先端の曲がり

* ガラスのような平らな面に針を置き、針の曲がり具合を確認してください。

カマのそうじ

ミシン本体の汚れは、やわらかい布で乾拭きしてください。

(住宅用洗剤、漂白剤、ベンジン、シンナー、化学雑巾は表面の色が変わるため、ご使用しないでください)



注意

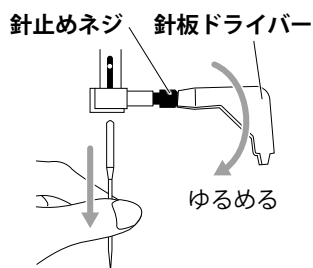
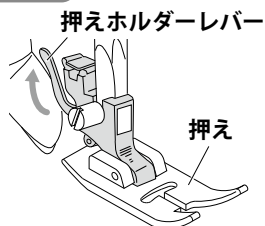


・電源スイッチを『OFF』にし電源コードプラグをコンセントから抜く。
突然動くとかげをする恐れがあります。

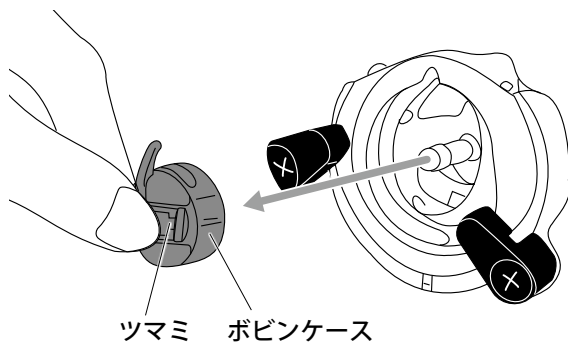


・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

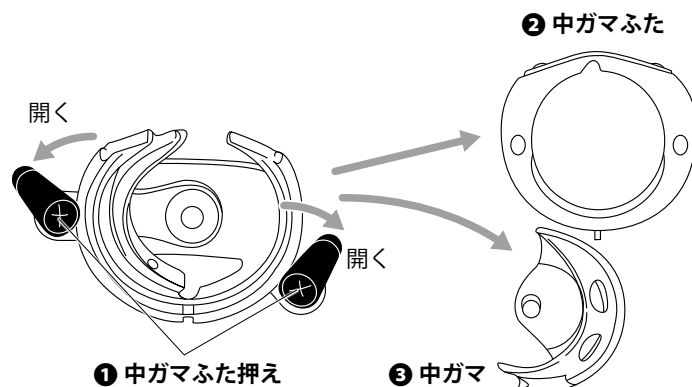
準備



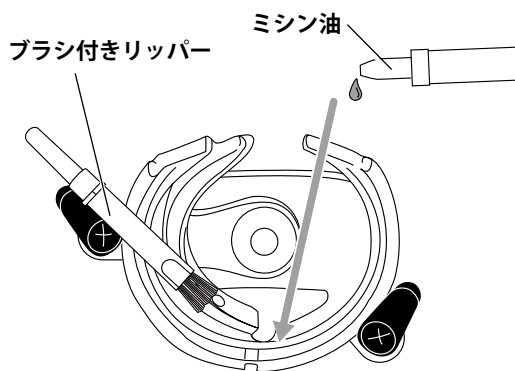
- 【1】『はずみ車』を手前に回し、針を上に出します。
- 【2】『押え』を上げ、『押えホルダーレバー (金属)』を押して『押え』をはずします。
- 【3】『針板ドライバー』で『針止めネジ』をゆるめ、針を下に引き抜きます
(P32の針の取り替えかたを参照してください)



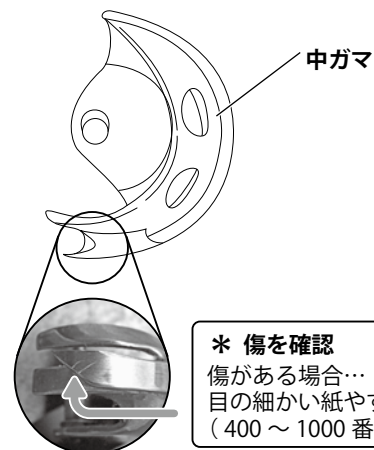
- 【1】『ボビンケースのつまみ』をおこし、
つまんだまま引き抜きます。



- 【2】 ①『中ガマふた押え』を左右に開き、
②『中ガマふた』→ ③『中ガマ』の順番で
取り出します。

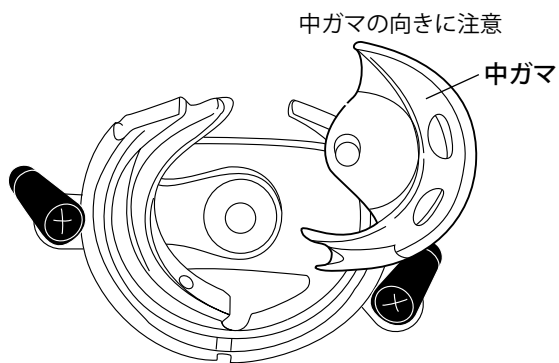


- 【3】 カマのまわりの糸くずやほこりを取り除き、
図で示したところにミシン油を一滴差します。
(差し過ぎないように注意します)
* 『ミシン油』は付属されていません。

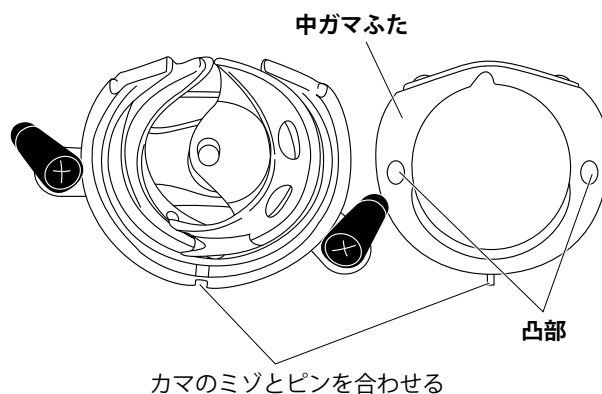


*** 傷を確認**
傷がある場合…
目の細かい紙やすり
(400～1000番)で取り除く

- 【4】 図の矢印部をさわって、傷があるか確認します。
傷がある場合：目の細かい紙やすり
(400～1000番)で取り除く。
* 傷があると糸絡みや目飛びの原因になります。



- 【5】 組み立てるとき『中ガマ』の向きに注意して取り付けます。



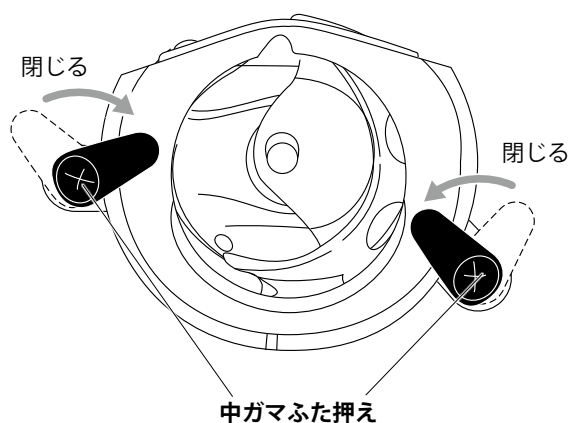
- 【6】 『中ガマふたの凸部』を表にして『カマのミゾ』と『ピン』を合わせて、『中ガマふた』を取り付けます。



注意



- ・両方の中ガマふた押えを凸部にかぶさる位置までしっかり閉じてください。
針が中ガマなどに干渉し、ケガをする恐れがあります。



- 【7】 『中ガマふた押え』を閉じて固定します。

＊『はずみ車』を手前に回して、針とカマがスムーズに回るか確認してください。

ポイント

- 【1】 糸が絡んだなどのトラブルが発生した後は、必ず上糸と下糸を全て外して再度かけ直してください。
(P15の上糸のかけかたを参照してください)
- 【2】 『はずみ車』を手で軽く手前に回して試し縫いを行い、縫い目に異常がないか確認して、問題なければ電動で動かしてください。

送り歯のそうじ



注意

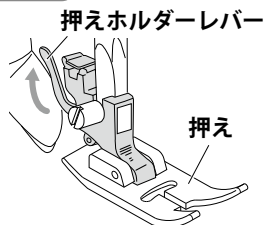


- ・電源スイッチを『OFF』にし電源コードプラグをコンセントから抜く。
突然動くとケガをする恐れがあります。

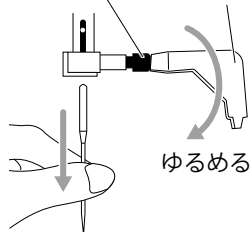


- ・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

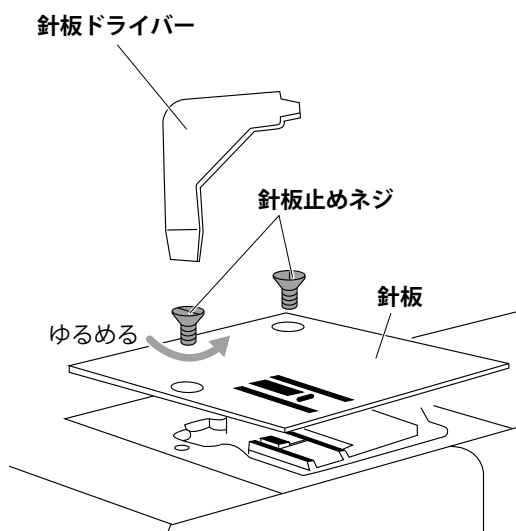
準備



針止めネジ 針板ドライバー



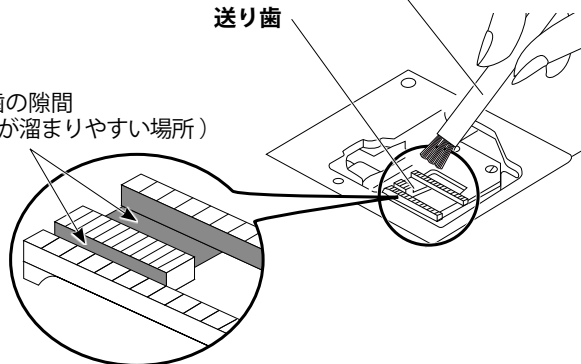
- 【1】『はずみ車』を手前に回し、針を上にします。
- 【2】『押え』を上げ、『押えホルダーレバー（金属）』を押して『押え』をはずします。
- 【3】『針板ドライバー』で『針止めネジ』をゆるめ、針を下に引き抜きます
(P32の針の取り替えかたを参照してください)



- 【1】『針板ドライバー』で『針板止めネジ』2個を外します。
- 【2】『針板』を外します。

ブラシ付きリッパー
送り歯

送り歯の隙間
(ゴミが溜まりやすい場所)



- 【3】『送り歯』の隙間にはさまっているゴミなどを取り除きます。
- 【4】『針板』を『針板止めネジ』で止め、針と『押え』を取り付けます。

困ったときは

不具合	原因	処理	ページ
上糸が切れる	上糸のかけかたが間違っている。	上糸を正しくかけ直す。	15
	上糸の調子が強すぎる。	上糸の調子が合うまで、糸調子を弱める。	27
	カマに糸くずが絡んでいる。	カマの糸くずを取り除く。	33
	針が曲がっている。針先が欠けている。	新しい針に交換する。	32
	針や糸が布に合っていない。	布に合った針と糸を使用する。	26
	中ガマに傷がある。	中ガマの傷を取り除く。	33
	糸が劣化している。 (絹糸や綿糸は劣化しやすい)	新しい糸に取り替える。	—
	糸に結び目やコブがある。	糸に結び目やコブの部分を取り除く。	—
	正規のボビンを使用していない。	正規のボビンを使用する。	4
下糸が切れる	下糸のかけかたが間違っている。	下糸を正しくかけ直す。	14
	カマに糸くずが絡んでいる。	カマの糸くずを取り除く。	33
	糸が劣化している。 (絹糸や綿糸は劣化しやすい)	新しい糸に取り替える。	—
	正規のボビンを使用していない。	正規のボビンを使用する。	4
縫い目がとぶ	針の取り付けかたが間違っている。	正しく針を取り付ける。	32
	針が曲がっている。針先が欠けている。	新しい針に交換する。	32
	針や糸が布に合っていない。	布に合った針と糸を使用する。	26
	上糸のかけかたが間違っている。	上糸を正しくかけ直す。	15
	中ガマに傷がある。	中ガマの傷を取り除く。	33
布がシワになる	上糸の調子が強すぎる。	上糸調節ダイヤルで糸調子を弱める。	27
	上糸、下糸のかけかたが間違っている。	上糸、下糸を正しくかけ直す。	14、15
	針や糸が布に合っていない。	布に合った針と糸を使用する。	26
布を送らない	送り歯にホコリが溜まっている。	送り歯のホコリを取り除く。	35

不具合	原因	処理	ページ
布の裏の糸が タオル状になる	上糸の調子が弱すぎる。	上糸調節ダイヤルで糸調子を強める。	27
	上糸のかけかたが間違っている。	上糸を正しくかけ直す。	15
	押え上げレバーが上がっている。	押え上げレバーを下げて縫う。	21
ミシンが動かない	電源コードプラグの差し込みが不十分。	電源コードプラグをしっかりと奥まで差す。	9
	電源スイッチが OFF になっている。	電源スイッチを ON にする。	9
	糸巻きモードになっている。	糸巻きモードを解除する。	21

仕様

＊ これらの現象、原因以外の不具合はミシン内部の調整や部品の磨耗によるまたは電気系統の故障が原因と
なっている可能性があります。ご購入店または弊社サービスセンター (P38 参照) までご相談ください。

モデル：FL-220 シリーズ	サイズ： W35.5 × D15.5 × H27.5cm	重量：5kg	使用針：家庭用ミシン針 (HA × 1)
最大振幅：4.5mm	最大送り量：3.6mm	返し縫い送り量：2.9mm	ボタンホール：4 ステップ
定格電圧：交流 100V	定格周波数：50/60Hz	定格消費電力：61W	回転速度：650(± 50)rpm
フットコントローラー 型式：KD-1902 定格：AC100V		ボビン：家庭用プラスチックボビン (高さ 11.5mm×直径 20.5mm)	
カマタイプ：垂直半回転ガマ			

修理サービス要領

● 修理サービスのご相談

- 【1】 このミシンのご購入者には、ご購入店から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。
- 【2】 内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 【3】 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。
- 【4】 修理サービスについてお問い合わせやご不審のある場合は、ご購入店または、弊社にお申し付けください。

● 修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、ご購入の日から通常7年間は必要に応じて弊社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

● 無料修理保証期間後の修理サービス

- 【1】 取扱説明書に基づいて、正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。
ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。
 - イ. 保存上の不備または、落下による破損、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - ロ. 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - ハ. ご購入後の移動または輸送によって不調、故障、損傷したとき。
 - ニ. ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
- 【2】 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によって元どおりに修復できないことがあります。
- 【3】 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料金の合計額となります。

お問い合わせまたはご相談先

ミシンについてのお問い合わせ、ご相談はご購入店のほか、下記の弊社サービスセンターでも承っておりますのでご遠慮なくお申し付けください。



お問い合わせのメール
フォームに移動します。

株式会社 アックス ヤマザキ サービスセンター

TEL : **0120-405-851**

携帯電話からもご利用できます。

E-Mail : **info@axeyamazaki.co.jp**

平日 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝祭日除く)

〒544-0022 大阪府大阪市生野区舍利寺 3-12-5 株式会社 アックス ヤマザキ

TEL : 06-6717-5851 FAX : 06-6741-7875 平日 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝祭日除く)

* 住所および電話番号は都合により変更することがありますのでご了承ください。

* 純正部品の購入についてのお問い合わせは、ご購入店のほか、上記弊社サービスセンターにおたずねください。

* ご購入頂きましたミシンは、上記の専門工場で点検修理等のサービスをいたします。

* サービスには有償修理点検と無償修理点検があります。ミシン送付前に必ず弊社サービスセンターにお問合せください。

* ミシンを工場へ送付されるときは、必ずこのミシンの箱と緩衝材(クッション)をご利用ください。

* 運送時、ミシンが揺れてミシン本体が破損してしまう場合があるので梱包するとき注意してください。

ミシン保証書

型 式	FL-220シリーズ		機 械 番 号		ご購入後には ※印欄への記入の 有無をご確認下さい。 記入がない時は ご購入日、または お届け日が証明できる 伝票等を添付して ください。 本書は再発行 いたしません。 紛失しないように 大切に保管して下さい。
※ お買い上げ日	年 月 日	保 証 期 間	お買い上げ日より本体 1 年		
※ お 客 様	ご住所	〒 TEL 様方			
	フリガナ ご芳名			様	
※ 販 売 店	住 所 店 名	〒 TEL			

無料修理保証に付いて

1. 無料修理保証期間（ご購入の日から 1 年間）内に故障が発生した場合は、無料で故障箇所の修理調整、または故障部品の交換をいたします。
2. 無料修理保証は表記のミシン本体のみとし、針などの消耗品は除きます。
3. 無料修理保証をお受けいただくときは、この保証書をご提示してください。
4. 保証機種がコンパクトミシンまたは、軽量可搬のポータブルミシン等であるときは、そのミシンを購入店へご持参、またはご相談ください。

無料修理保証が受けられない場合

次のような場合には、保証期間内でも保証の対象とはなりません。

1. 取扱説明書に記載してある使用方法または、保存方法と異なる方法によったため不調、故障または損傷したとき。
2. 落下による破損、浸水、冠水、火災、天災地変により不調故障または損傷したとき。
3. ご購入店または弊社で指定した販売店、サービス店以外で修理分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
4. 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
5. 特別なご依頼により点検、精密検査または分解そうじ等をしたとき。
6. この保証書のご提示がなかったとき。
7. この保証書に購入年月日、ご購入店名の記載または捺印がなかったとき。
8. この保証書の字句の訂正または書き換えをしたとき。
9. この保証書は日本国内に限り有効といたします。This warranty is valid only in Japan.

有償修理について

上記の 1. ～ 9. に該当する場合、その他有料で修理するときの費用は、別に定める必要部品代、交通費および技術料の合計額といたします。

お問い合わせまたはご相談先

この保証書に記載してありますご購入店または、取扱説明書に記載された「サービスセンター」にお申し付けください。

お客様へのお願い

1. この保証書は、本書によって明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理について、ご不明の場合はご購入店または、当社の「サービスセンター」などにお問い合わせください。
2. 取扱説明書の「修理サービス要領」をよくお読みください。
3. この保証書は紛失されても再発行いたしませんので、大切に保存してください。

AXE YAMAZAKI

【保証責任者】株式会社 アックス ヤマザキ

〒 544-0022 大阪府大阪市生野区舍利寺 3-12-5
TEL:06-6717-5851